

献 血

～ さあ行こう 未来をつなぐ 献血へ～



令和元年度



長崎県福祉保健部薬務行政室

はじめに

本県の血液事業は、昭和39年9月に佐世保赤十字血液センターが献血業務を開始して以来、県民の皆様方の温かい善意と市町はじめ関係の方々のご支援、ご努力により順調に伸展してまいりました。

平成30年度は、県民の4.0%にあたる53,349人の方々に献血していただき、事業開始以降の献血者数は延べ約437万人に達し、多くの尊い命が県民の皆様方の善意の献血により救われました。

これもひとえに、献血者の皆様のご理解とご協力、並びに血液事業の推進に携わってこられた関係者のご尽力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

さて、近年の献血を取り巻く状況は、少子高齢化による若年層を中心とした献血可能人口の減少に加え、これからの献血基盤を支える20代、30代の方の献血率が減少傾向にあり、将来の血液製剤の安定供給が危惧されております。

こうした状況を踏まえ、国は、将来の血液の安定供給体制を確保するため、平成27年度から平成32(2020)年度までの6年間での達成を目標とした「献血推進2020」を設定し、(1)献血の普及啓発、(2)若年層対策の強化、(3)安心、安全で心の充足感が得られる環境の整備などの施策を講じているところです。

また、本県におきましても、毎年度献血推進計画を定めており、平成31年3月には「平成30年度長崎県献血推進計画」を策定し、長崎県赤十字血液センター、市町等と連携して若年層をはじめとする県民各層への普及啓発、中高生を対象に献血をテーマにしたポスターの募集や献血について分かりやすく説明する献血セミナーの実施、400mL献血の推進及び血液製剤の使用適正化の推進等に取り組んでいます。

今後とも、関係機関との連携を図りながら、献血思想の普及啓発や血液製剤の使用適正化を推進し、安全な血液製剤の安定供給の確保に引き続き努めてまいりますので、関係者の皆様には、引き続き血液事業の重要性をさらにご理解いただき、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、この冊子は平成30年度の本県の血液事業の現状についてまとめたものであり、献血推進のための参考にしていただければ幸いです。

令和元年9月

福祉保健部薬務行政室長
本多 雅幸

目 次

1	献血の推進	1
1 - 1	献血推進機構	4
1 - 2	献血推進キャンペーン	6
(1)	愛の血液助け合い運動	6
(2)	献血運動推進全国大会	8
(3)	平成30年度長崎県献血推進大会	8
(4)	「全国学生クリスマス献血」キャンペーン	10
(5)	「はたちの献血」キャンペーン	10
1 - 3	献血者登録制度	11
(1)	複数回献血クラブ「ラブラッド」	11
(2)	献血者登録制度の現況	12
2	長崎県の献血状況	13
2 - 1	献血希望者数	13
2 - 2	献血不適格者数	15
2 - 3	献血者数	21
(1)	献血者の年度別推移	21
(2)	年度別献血目標、献血者数及び達成率	23
(3)	献血者の月別推移	25
(4)	受け入れ施設別献血者数	27
(5)	性別献血者数	29
(6)	年齢別献血者数	31
(7)	職業別献血者数	33
(8)	高校生の献血状況	35
(9)	初回献血者数	37
3	血液製剤の製造・供給状況	38
3 - 1	献血後の各種検査	38
(1)	検査項目等	38
(2)	検査結果	39
3 - 2	血液製剤の供給状況	42
(1)	全体の供給状況	42
(2)	製剤別供給状況	42
3 - 3	血液製剤の供給方法	47
3 - 4	離島における血液製剤使用状況	48
4	平成31年度献血計画	49
(1)	献血目標	49
(2)	平成31年度保健所別献血目標	49

参 考 資 料 編 目 次

[一 般 事 項]

1	血液の組成	50
2	血液型	51
3	全血量	51
4	採血基準	52
5	献血の種類	53
6	献血の実際	55
7	血液製剤の種類	58
8	検査サービス	63
9	血液製剤の価格	65
10	平成30年度長崎県献血推進協議会開催状況	67
11	平成30年度保健所地区献血担当者会議開催状況	67
12	「平成30年度長崎県献血推進大会」における知事感謝状贈呈団体等	68
13	長崎県献血推進大会等開催状況	69
14	献血運動推進全国大会等開催状況	73

[血 漿 分 画 製 剤 の 需 給 状 況 と 自 給 率]

1	血液凝固因子製剤	80
2	アルブミン製剤	81
3	免疫グロブリン製剤	81

[基 本 方 針 ・ 各 種 計 画]

	血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図るための基本的な方針	82
	平成31年度の献血の推進に関する計画	95
	平成31年度長崎県献血推進計画	100

[要 綱 等]

	長崎県献血推進協議会運営要綱	106
	長崎県献血推進協議会委員名簿	108
	市(町)献血協力会運営要綱(案)	109
	長崎県献血者登録制度推進事業実施要領	110
	血液事業の経緯	112
	献血申込書(診療録)・問診票	115
	問い合わせ先	117

1 献血の推進

昭和39年3月24日に発生したライシャワー駐日アメリカ大使刺傷事件で売血制度が大きな社会問題となり、血液事業に関する諸問題について根本的な再検討が政府内で行われた結果、保存血液の供給は献身体制の確立によって行われるべきであるとの結論を得て、昭和39年8月21日「献血の推進について」の次のような閣議決定が行われ、現在の献血運動が全国的にスタートしました。

献血の推進について

昭和39年8月21日

閣議決定

政府は、血液事業の現状にかんがみ可及的速やかに保存血液を献血により確保する体制を確立するため、国及び地方公共団体による献血思想の普及と献血の組織化を図るとともに、日本赤十字社または地方公共団体による献血受入体制の整備を推進するものとする。

長崎県では昭和39年9月に佐世保市に血液センターが設置され、現在の献血制度が確立されました。その後長崎市にも血液センターが設置され、平成24年3月まで2か所の血液センターで業務を行っていましたが、平成24年4月から長崎県佐世保赤十字血液センターを長崎県赤十字血液センター佐世保出張所へ組織改正を行い、1センター体制となっています。

また、平成15年7月30日には「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」(いわゆる血液法)が施行となり、これまで昭和39年の閣議決定により推進してきた本事業が法制化され、血液事業の運営指針となる基本理念が設定されるとともに、国をはじめとする関係機関の責務が明確化されました。

安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律(抜粋)

平成14年7月31日公布

平成15年7月30日施行

(目的)

第一条

この法律は、血液製剤の安全性の向上、安定供給の確保及び適正な使用の推進のために必要な措置を講ずるとともに、人の血液の利用の適正及び献血者等の保護を図るために必要な規制を行うことにより、国民の保健衛生の向上に資することを目的とする。

(基本理念)

第三条

血液製剤は、その原料である血液の特性にかんがみ、その安全性の向上に常に配慮して、製造され、供給され、又は使用されなければならない。

2 血液製剤は、国内自給(国内で使用される血液製剤が原則として国内で行われる献血により得られた血液を原料として製造されることをいう。以下同じ。)が確保されることを基本とするとともに、安定的に供給されるようにしなければならない。

3 血液製剤は、献血により得られる血液を原料とする貴重なものであること、及びその原料である血液の特性にかんがみ、適正に使用されなければならない。

4 国、地方公共団体その他の関係者は、この法律に基づく施策の策定及び実施に当たっては、公正の確保及び透明性の向上が図られるよう努めなければならない。

本県の血液事業のこれまでの歩みは、以下のとおりとなっています。

【 本県における献血の経過 】

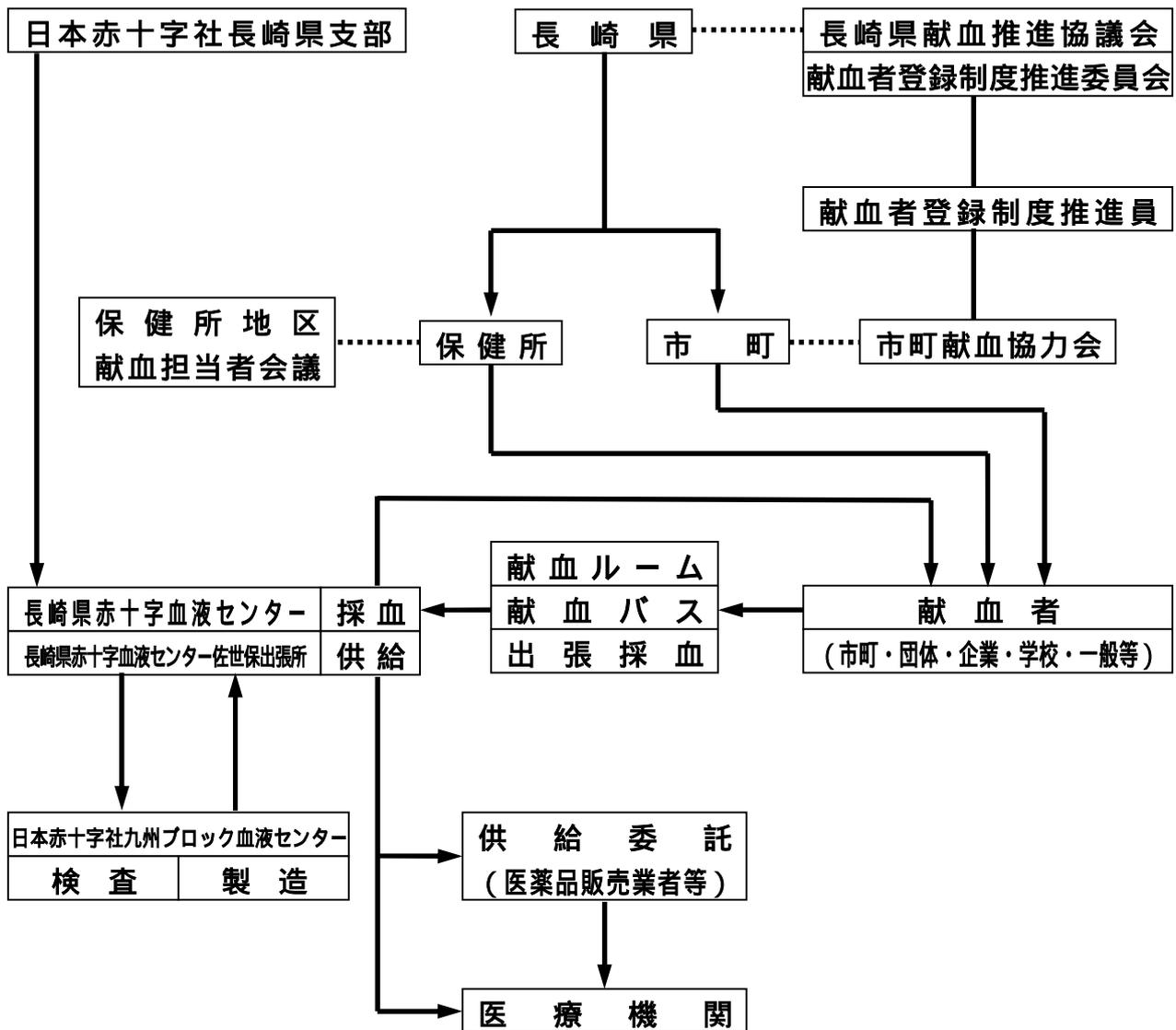
- 昭和39年 8月 「献血の推進について」閣議決定
- 昭和39年 9月 佐世保赤十字血液センター業務開始
- 昭和39年10月 長崎県献血推進協議会設置
- 昭和42年 4月 売血制度廃止、献血一本化
- 昭和42年 8月 長崎県赤十字血液センター業務開始
- 昭和43年 離島地区に保存血液の備蓄・供給開始
- 昭和44年 全保健所に献血推進連絡協議会設置
- 昭和49年 献血推進員設置
- 昭和51年 血液成分製剤製造、供給開始
- 51年～53年 離島地区（福江、有川、郷ノ浦、巖原）で血液成分製剤の備蓄、供給開始
- 昭和57年 7月 献血者延べ100万人突破
- 昭和60年 7月 献血ルーム「はまのまち」オープン
- 昭和60年 9月 献血者延べ150万人突破
- 昭和61年 4月 新しい献血方法（400mL献血、成分献血）の導入
- 昭和61年 4月 血液製剤使用適正化普及事業の実施
- 昭和61年10月 献血者登録制度の開始（献血者登録制度推進員の設置 94名）
- 平成元年 3月 長崎県赤十字血液センター新築、移転
- 平成元年 5月 献血者延べ200万人突破
- 平成 3年 3月 献血ルーム「西海」オープン
- 平成 4年 2月 血液製剤使用に係わる懇談会設置
- 平成 4年12月 人赤血球濃厚液にMAPの導入開始（有効期間が21日から42日に延長）
血液成分製剤返品基準の改訂
- 平成 5年 6月 献血者延べ250万人突破
- 平成 6年 9月 長崎県献血推進30周年記念式典
- 平成 7年 4月 日赤の献血功労表彰制度改正（献血回数すべて1回にカウントなど）
赤血球MAP製剤の有効期間短縮（42日間 21日間）
- 平成 7年 6月 血液問題検討会「輸血用血液製剤の安全性に関する報告」
- 平成 7年 7月 献血時の問診強化（問診票全国統一化、署名導入など）
- 平成 9年 2月 冬場の献血者確保対策の一環として「1,000人献血」イベントの実施
- 平成 9年 4月 保健所地区献血推進連絡協議会に代わり、新たに保健所地区献血推進市町村
等連絡調整会議の設置
- 平成 9年 9月 血液製剤に関する記録の保管・管理義務付け
- 平成 9年12月 血液行政の在り方に関する懇談会報告書
- 平成10年 5月 献血者延べ300万人突破
- 平成10年 6月 放射線照射血製造・供給開始
- 平成11年 4月 HTLV-1抗体陽性者通知開始
佐世保赤十字血液センター新築、移転

- 平成11年 6月 「血液製剤の使用指針」「輸血療法の実施に関する指針」制定
- 平成11年10月 ウインドウ・ピリオド期間を短縮するNAT検査（核酸増幅検査）導入
- 平成12年 2月 問診の改正（クロイツフェルト・ヤコブ病感染対策）
- 平成12年 3月 問診票の改正（エイズ感染対策）
- 平成13年 3月 全輸血用血液製剤に対する核酸増幅検査（NAT検査）の義務づけ
問診の強化（クロイツフェルト・ヤコブ病感染対策、対象国の拡大）
- 平成13年 7月 「第1回長崎県献血感謝の集い」の開催
- 平成13年11月 「第1回長崎県献血推進キャンペーン」の開催
- 平成14年 4月 長崎・佐世保両血液センターの運営一体化に伴い、佐世保赤十字血液センターを長崎県佐世保赤十字血液センターへ改称
- 平成15年 3月 問診の強化（海外からの帰国者への対応等）
- 平成15年 7月 安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律の施行（H14.7公布）
改正薬事法（生物由来製品に関する部分）の施行
- 平成17年 1月 献血者延べ350万人突破
- 平成17年 2月 国内初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の患者を確認
- 平成17年 4月 長崎県献血推進本部の設置（平成20年6月廃止）
- 平成17年 6月 欧州滞在歴に関する問診の強化（変異型クロイツフェルト・ヤコブ病伝播防止対策）
- 平成18年10月 献血健康被害救済制度の開始
- 平成20年 1月 九州各県血液センターの検査業務を福岡県久留米市の日本赤十字社九州血液センターに集約
- 平成20年 3月 九州各県血液センター（沖縄県除く）の製剤業務を日本赤十字社九州血液センターに集約
- 平成21年 7月 第45回献血運動推進全国大会を佐世保市（アルカスSASEBO）で開催
- 平成23年 4月 採血基準の改定、問診の強化（安全対策の強化）
- 平成24年 4月 九州ブロック血液センターの新設
長崎県佐世保赤十字血液センターを長崎県赤十字血液センター佐世保出張所へ組織改正
- 平成24年11月 献血者延べ400万人突破
- 平成26年 3月 献血ルーム「西海」がリニューアルオープン
- 平成26年11月 長崎県献血50周年記念式典
- 平成27年 4月 血液センター母体における採血業務を休止

1 - 1 献血推進機構

本県においては、献血思想の普及並びに献血者の組織化を図るため、長崎県献血推進協議会を設置するとともに、保健所単位に保健所地区献血担当者会議を、市町、事業所単位に献血協力会を結成し、血液センターと以下のような連携のもと献血推進に取り組んでいます。

【 献 血 推 進 の 機 構 図 】 （平成31年3月末現在）



【 献 血 推 進 組 織 】 （平成31年3月末現在）

業 務	機 関
普及・啓発	<p>県（薬務行政室）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎県献血推進協議会（会長1人、委員34人、幹事1人） 長崎県献血推進協議会運営要綱 <p>保健所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健所地区献血担当者会議（仮称：名称は各保健所長に委ねられる） <p>市町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町献血協力会（委員：市町の判断に委ねられる） <p>日本赤十字社長崎県支部 血液センター（長崎、佐世保）</p>
採血業務	<p>長崎県赤十字血液センター 管轄区域：長崎市、西彼・県央(旧大村保健所管内を除く)・県南・五島・対馬の保健所区域 管内人口：843,050人（H31.3.1現在 県統計課調べ） 採血機能：献血ルーム「はまのまち」... 10ベッド 採血バス... 3台（延べ12ベッド）</p> <p>長崎県赤十字血液センター佐世保出張所 管轄区域：佐世保市 県央(旧諫早保健所管内を除く)・県北・上五島・壱岐の保健所区域 管内人口：491,810人（H31.3.1現在 県統計課調べ） 採血機能：献血ルーム「西海」... 11ベッド 採血バス... 2台（延べ8ベッド）</p>
供給業務	<p>長崎県赤十字血液センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内医療機関へ直接供給（直配） ・島原市、南島原市、離島地区は、各地区の拠点となる医療機関の備蓄による供給 <p>島原市、南島原市：島原病院 下五島地区：五島中央病院 上五島地区：上五島病院 壱岐地区 ：壱岐病院 対馬地区 ：対馬病院</p> <p>血漿分画製剤については一般医薬品と同様に卸売販売業で取り扱える。</p>
使用適正化	<p>県（薬務行政室）及び長崎県赤十字血液センター 合同輸血療法委員会及び輸血研修会の実施</p>

(注)製剤業務について・・・平成20年3月に福岡県久留米市の日本赤十字社九州血液センターに沖縄県を除く九州各県血液センターの製剤業務を集約

1 - 2 献血推進キャンペーン

(1) 愛の血液助け合い運動

毎年7月を「愛の血液助け合い運動」月間として、同運動が全国的に展開されています。

長崎県においても、県、日本赤十字社県支部及び血液センターと密接な連携を保ちながら運動計画を策定し、市町、各種団体、報道機関及び一般県民の協力を得て、血液についての正しい知識や献血の重要性についての認識の浸透を図るなど、献血思想の普及啓発を行っています。

平成30年度については、以下のような運動を実施しました。

【 平成30年度「愛の血液助け合い運動」実施結果 】

事業主体	実施内容
長崎市	<ul style="list-style-type: none"> ・広報ながさき7月号に掲載 ・長崎市ホームページ「桜町健康通信」に掲載 ・長崎市メールマガジンで配信 ・市内高等学校等(高校20校、医療専門学校2校)を訪問し、献血への協力を依頼(6/27・28) ・献血啓発用ポスター、チラシ及びうちわを関係施設等76か所に配布(6/25) ・市役所本館2階及び別館玄関掲示板にポスターの掲示(7月) ・長崎県献血推進大会(長崎市開催)へ参加(7/28)
佐世保市	<ul style="list-style-type: none"> ・広報させぼ7月号に掲載 ・市関係施設へのポスターの掲示、チラシの配布による広報 ・佐世保市ホームページに掲載
西彼保健所	<ul style="list-style-type: none"> ・車両による広報パレード(7/12、18) 管内を西海市(大瀬戸町、崎戸町、大島町、西海町、西彼町)と西彼杵郡(長与町、時津町)に分けて、2日間広報車両による献血広報活動 ・管内イベントにおける献血啓発活動(7/8) イオン時津店において、来店者に対し献血啓発用資材(チラシ及びうちわ400部)を配布し献血協力の呼びかけ ・庁舎内にポスター掲示及び広報資材の配置 ・管内市町へ啓発用チラシ、ポスターの配布 ・西彼保健所地区献血担当者連絡会議の開催(7/24)
管内市町	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎、公共施設等でポスターの掲示、啓発用チラシの配布(西海市、長与町、時津町) ・広報誌に掲載(西海市、長与町) ・防災行政無線、データ放送を利用した献血協力依頼(西海市)
県央保健所	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスター掲示、啓発用チラシの窓口設置及び配布 ・管内市町への啓発用チラシ・ポスターの配布及び広報依頼 ・「ダメ。ゼッタイ。」普及街頭キャンペーンにおいて啓発用うちわの配布 ・川棚町献血協力推進委員会への参加(7/11) ・諫早市献血推進協議会総会への参加(8/1) ・長崎県献血推進大会(長崎市開催)へ参加(7/28)
管内市町	<ul style="list-style-type: none"> ・懸垂幕の設置による広報活動(諫早市)

	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌に掲載(諫早市、大村市、東彼杵町、川棚町、波佐見町) ・庁舎、公共施設等でポスターの掲示、啓発用チラシの配布(諫早市、大村市、東彼杵町、川棚町、波佐見町) ・ホームページに掲載(東彼杵町、波佐見町) ・町内放送や行政情報アプリによる広報活動(東彼杵町、波佐見町) ・町立図書館における献血PRコーナーの設置(川棚町) ・長崎県献血推進大会(長崎市開催)へ参加(諫早市)
県南保健所	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスター掲示、啓発用チラシの窓口設置及び配布 ・管内市町への啓発用チラシ・ポスターの配布及び広報依頼 ・「ダメ。ゼッタイ。」普及街頭キャンペーンにおいて啓発用うちわを配布 ・県南保健所地区献血担当者連絡会議の開催(7/31)
管内市町	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌に掲載(島原市、雲仙市、南島原市) ・庁舎、公共施設等でポスターの掲示、啓発用チラシの配布(島原市、雲仙市、南島原市) ・ホームページや防災無線を利用した献血協力依頼(島原市、雲仙市、南島原市) ・献血協力者に貧血改善のための食事のポイントとレシピの作成(雲仙市)
県北保健所	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスター掲示、啓発用チラシの窓口設置及び配布 ・「ダメ。ゼッタイ。」普及街頭キャンペーンにおいて啓発用うちわを配布 ・管内市町への啓発用チラシ・ポスターの配布
管内市町	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌に掲載(松浦市、佐々町) ・庁舎、公共施設等でポスターの掲示、啓発用チラシの配布(平戸市、松浦市、佐々町)
五島保健所	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスター掲示、啓発用チラシの窓口設置及び配布 ・「ダメ。ゼッタイ。」普及街頭キャンペーンにおいて啓発用うちわを配布
管内市	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎、公共施設等でポスターの掲示、啓発用チラシの配布
上五島保健所	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスター掲示、啓発用チラシの窓口設置及び配布 ・管内市町への啓発用チラシ・ポスターの配布及び広報依頼 ・巡回献血時に管内県職員へメールで協力依頼 ・巡回献血時に町内事業所を訪問し協力依頼 ・巡回献血時の広報車を用いた広報活動
管内町	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎、公共施設等でポスターの掲示、啓発用チラシの配布(新上五島町、小値賀町) ・巡回献血実施時に町内放送、各家庭回覧文書及び事業所への協力依頼の文書を発送(新上五島町)
壱岐保健所	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスター掲示、啓発用チラシの窓口設置及び配布 ・管内市へ啓発用ポスター及びチラシ等配布及び広報依頼
管内市	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎、公共施設等でポスターの掲示、啓発用チラシの配布 ・市ホームページを活用した献血協力依頼 ・行政無線、ケーブルテレビを活用した献血協力依頼
対馬保健所	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスター掲示、啓発用チラシの窓口設置及び配布 ・「ダメ。ゼッタイ。」普及街頭キャンペーンにおいて啓発用うちわを配布

	<ul style="list-style-type: none"> ・公用車に啓発用ステッカーを掲示
管内市	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎、公共施設等でポスターの掲示、啓発用チラシの配布 ・ケーブルテレビを利用した啓発
薬務行政室	<ul style="list-style-type: none"> ・市町・各種団体・県政記者室等に対する本運動の周知・協力依頼 ・FMラジオ・新聞による啓発 ・平成30年度長崎県献血推進大会の開催（7/28、長崎市） ・啓発用資材（ポスター、チラシ、うちわ）等の作成及び配布
長崎県赤十字血液センター	<ul style="list-style-type: none"> ・献血サマーイベント「あつかばってん献血ば！」（7/14～15、長崎市） ・平成30年度長崎県献血推進大会開催への参加・協力（7/28、長崎市） ・新聞による啓発 ・啓発用資材（ポスター）の掲示、配布
長崎県赤十字血液センター佐世保出張所	<ul style="list-style-type: none"> ・献血サマーイベント「サマー献血キャンペーン」（7/14～15佐世保市） ・親子献血教室の開催（7/29） ・平成30年度長崎県献血推進大会開催への参加・協力（7/28、長崎市） ・啓発用資材（ポスター）の掲示、配布

（２）献血運動推進全国大会

「愛の血液助け合い運動」行事の一環として同運動の全国的な盛り上がりを目指すため、「献血運動推進全国大会」が昭和40年から毎年開催され、平成30年度は7月12日に岡山県岡山市において開催が予定されていましたが、西日本を中心とした豪雨の影響により、中止となりました。

なお、同大会は中止となったものの、献血運動に功労のあった方々に対し、厚生労働大臣表彰状及び感謝状並びに日本赤十字社有功章が贈呈され、本県の多くの方々も受賞されました。

（P79参照）

（３）平成30年度長崎県献血推進大会

献血運動の普及により献血者が増加したことや、献血組織の育成や献血思想の普及に特に顕著な功績があった個人及び団体が多くなったこと等を機会に、これらの人々に感謝状を贈呈し今までの功績をたたえ、また、今後の血液事業推進を期すため「愛の血液助け合い運動」行事の一環として昭和46年から「長崎県献血推進大会」（平成13年度から平成20年度までは「長崎県献血感謝の集い」、平成21年度は長崎県で開催された「献血運動推進全国大会」として）を開催しています。

「平成30年度長崎県献血推進大会」については、平成30年7月28日に長崎市で開催し、献血功労団体及び協力団体並びに献血回数100回以上の献血協力者の方々に対し、知事感謝状を贈呈しました。なお、これまでの長崎県献血推進大会の開催状況については参考資料（P69～72）に掲載しています。

【 平成30年度長崎県献血推進大会受賞者一覧 】

厚生労働大臣表彰状	2団体
厚生労働大臣感謝状	9団体
長崎県知事感謝状贈呈者	
献血功労団体	8団体
献血協力団体	3団体
献血協力者	
献血回数 800回以上	1人
400回以上	4人
300回以上	8人
200回以上	15人
100回以上	78人
日本赤十字社金色有功章	
献血団体	1団体
日本赤十字社銀色有功章	
献血団体	10団体
日本赤十字社長崎県支部長感謝状贈呈者	
団体の部	13団体
個人の部	4人

【 平成30年度長崎県献血推進大会開催状況 】

主催	長崎県、日本赤十字社長崎県支部、長崎県献血推進協議会
日時	平成30年7月28日(土) 13時30分～15時30分
場所	長崎市チトセピアホール (長崎市)
参加者	287人
会次第	1 開会宣言 長崎県福祉保健部長
	2 挨拶 長崎県知事 日本赤十字社長崎県支部長
	3 厚生労働大臣表彰状・感謝状伝達
	4 長崎県知事感謝状贈呈
	5 日本赤十字社有功章等伝達
	6 日本赤十字社長崎県支部長感謝状贈呈
	7 来賓祝辞 長崎県議会議長 長崎市長
	8 来賓紹介
	9 祝電披露
	10 献血推進DVD上映
	11 アトラクション(創成館高校ダンス部)
	12 閉会宣言 日赤長崎県支部事務局長

知事感謝状贈呈



アトラクション



(4)「全国学生クリスマス献血」キャンペーン

献血者が減少する冬場の血液を確保するとともに、若者の献血への理解と活性化を図り、献血の輪を広げることを目的として、昭和63年から全国各地で学生献血ボランティア団体がアイデアをこらした献血キャンペーンを毎年実施しています。

本県においても長崎市と佐世保市でサンタクロースや着ぐるみを着た学生ボランティアが献血を呼びかけました。

「全国学生クリスマス献血」キャンペーン（長崎県内のようす）



（長崎）12月15～16日



（佐世保）12月15～16日

(5)「はたちの献血」キャンペーン

新たに成人式を迎える若者を中心として広く住民各層に献血運動の重要性を認識していただくとともに、400mL献血及び成分献血への理解と協力を求め、冬場における血液不足を解消することを目的として、毎年「はたちの献血」キャンペーンが全国的に実施されています。

平成30年度は平成31年1月1日から2月28日までの2箇月間実施され、本県においては報道機関、ポスター等を通じて広報活動を実施したほか、イベントとしては、県内の献血ルームや大学等のキャンパスなどでキャンペーン献血が実施されました。

〔実施場所〕献血ルーム「はまのまち」及び「西海」、長崎大学文教キャンパス、長崎短期大学、長崎県立大学シーボルト校、長崎外国語大学、長崎国際大学、長崎総合科学大学、長崎県立大学佐世保校



「はたちの献血」キャンペーン（長崎市）



「はたちの献血」キャンペーン（佐世保市）

1 - 3 献血者登録制度

(1) 複数回献血クラブ「ラブラッド」

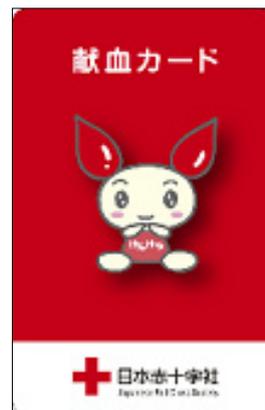
血液製剤を必要とされている患者さんのため、より安全で安定的な献血の受入れを行うことができるよう、また、利用者の方へのサービス向上を目的として、平成30年10月29日より複数回献血クラブの会員サイトが一新されました。

新たな会員サイト「ラブラッド」では、全国すべての献血ルーム（常設施設）で献血の予約できるシステムが導入されています。

採血の時間が最も長い「成分献血」では、受付から問診、事前検査、採血、休憩までを含めると、合計で約90分～120分を要しますが、混雑時にはさらに待ち時間が加わっていたため、この解消が期待されます。また、一部の血液センターで行っていた予約のシステムを全国的に統一するとともに、ご予約のお申し込みに対してリアルタイムに対応できるよう、機能を大幅に改善させています。

そのほかにも、会員サイト上で次回献血可能日を確認できるよう改修されたほか、ご住所の変更も行えるようになっていました。もちろん、これまでどおり会員となった方は、ご自身の血液の検査結果をWeb上で確認することができます。

さらに、全国共通のポイント制度を導入するなど、より一層サービスの充実が図られています。



(2) 献血者登録制度の現況

平成31年3月31日現在の本県における全血献血及び成分献血の登録者数は下の表のとおりであり、全血献血で4,263人、成分献血で10,137人の方に登録いただいています。

なお、今後も安全で良質な血液製剤を安定的に供給する体制を確立させ、また、400mL献血及び成分献血を強力に推進するため、引き続き献血者登録制度事業を推進することとしており、献血者登録について多くの県民の方のご協力をお願いします。

【 献 血 登 録 者 数 (人) 】

	施設名	型	A型	O型	B型	AB型	合計
全血献血登録者数	長崎県赤十字血液センター	Rh(+)	713	506	376	199	1,794
		Rh(-)	26	32	13	15	86
		計	739	538	389	214	1,880
	佐世保出張所	Rh(+)	855	598	465	233	2,151
		Rh(-)	100	62	45	25	232
		計	955	660	510	258	2,383
	小計	Rh(+)	1,568	1,104	841	432	3,945
		Rh(-)	126	94	58	40	318
		計	1,694	1,198	899	472	4,263
成分献血登録者数	長崎県赤十字血液センター	Rh(+)	2,350	1,670	1,283	782	6,085
		Rh(-)	44	30	25	17	116
		計	2,394	1,700	1,308	799	6,201
	佐世保出張所	Rh(+)	1,498	948	864	584	3,894
		Rh(-)	15	9	7	11	42
		計	1,513	957	871	595	3,936
	小計	Rh(+)	3,848	2,618	2,147	1,366	9,979
		Rh(-)	59	39	32	28	158
		計	3,907	2,657	2,179	1,394	10,137
合計	Rh(+)	5,416	3,722	2,988	1,798	13,924	
	Rh(-)	185	133	90	68	476	
	計	5,601	3,855	3,078	1,866	14,400	

(平成31年3月31日現在)

2 長崎県の献血状況

昭和39年9月1日、佐世保赤十字血液センターにおいて長崎県で最初の献血を受け付けて以来、平成31年3月末までの約50年間に延べ約437万人余りの県民の方々に献血していただいております。

2 - 1 献血希望者数

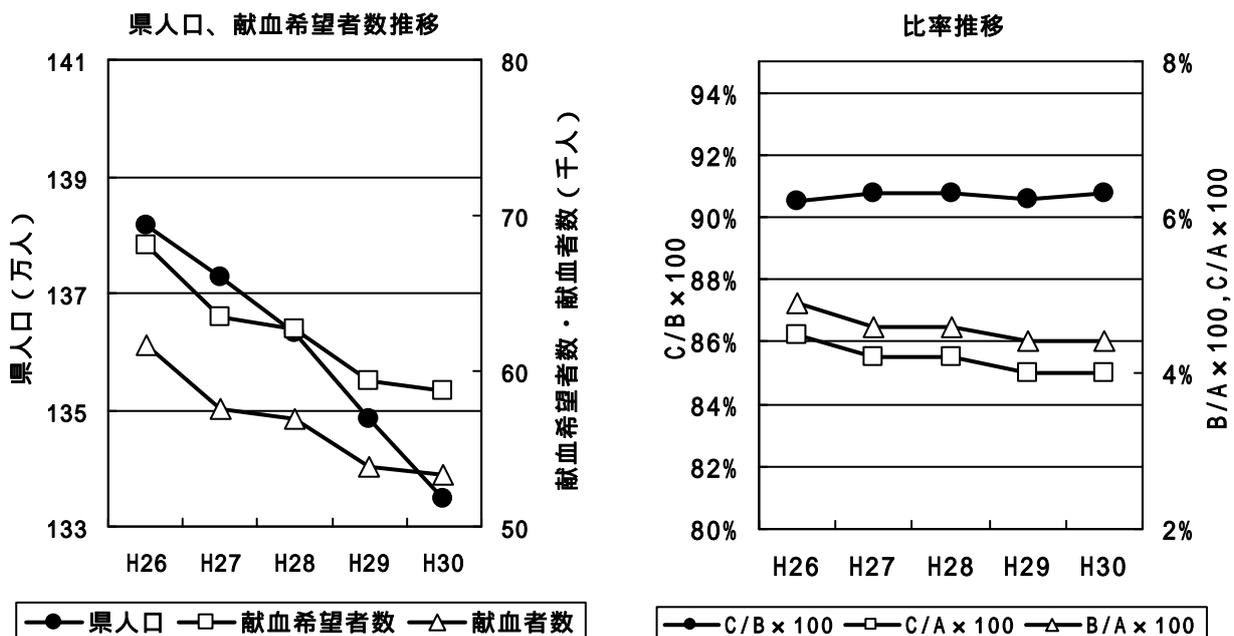
献血ルームや移動献血車などを訪れ、献血の受け付けをした献血希望者の数を下の表に示しています。

平成30年度は県民の4.4%にあたる58,731人の方々に献血を希望していただきました。献血希望者数は減少傾向にあり、平成30年度は平成29年度より673人減少しております。献血者数は平成29年度より493人減少しております。

【 献血希望者数及び献血者数の経年変化 】

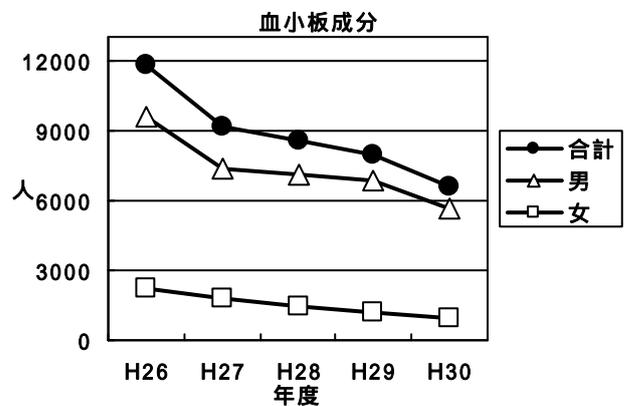
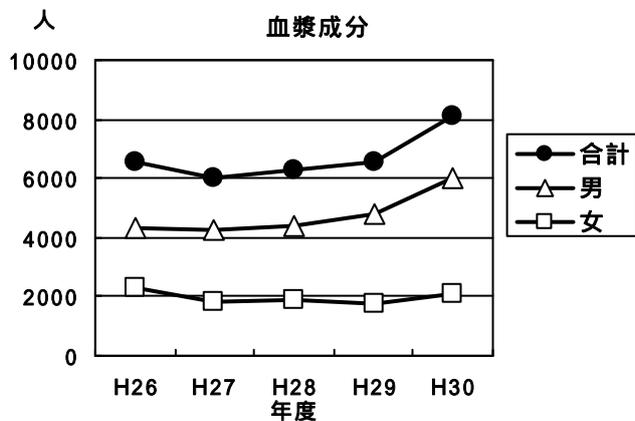
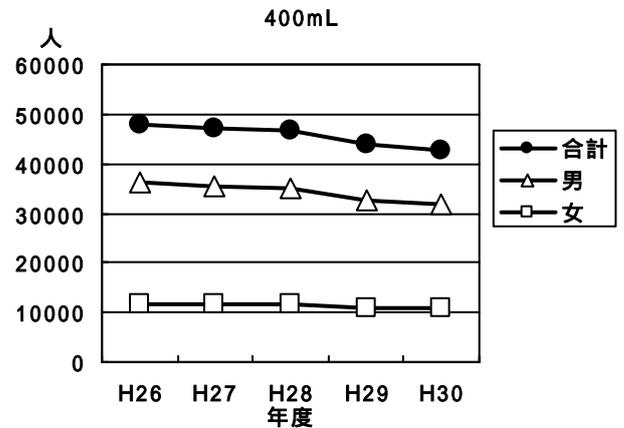
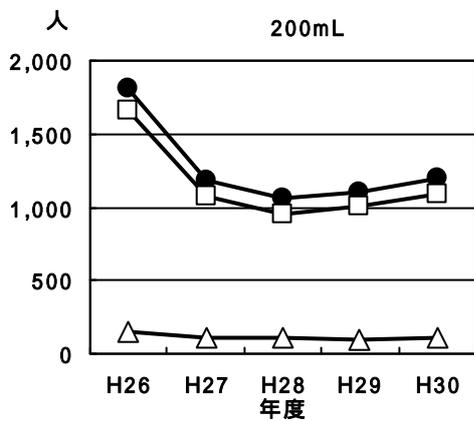
区分 年度	県人口 A	献血希望者数 B	献血者数 C	B/A × 100	C/A × 100	C/B × 100
平成30年度	1,334,860	58,731	53,349	4.4%	4.0%	90.8%
平成29年度	1,348,529	59,404	53,842	4.4%	4.0%	90.6%
平成28年度	1,363,284	62,699	56,915	4.6%	4.2%	90.8%
平成27年度	1,372,898	63,441	57,576	4.6%	4.2%	90.8%
平成26年度	1,381,714	68,118	61,626	4.9%	4.5%	90.5%

(注) 県人口：各年度3月1日現在（県統計課調べ）



【 献血種類別献血希望者数の経年変化 】

		献血希望者数	希望献血種類			
			200mL	400mL	血漿成分	血小板成分
平成30年度	男	43,771	112	31,957	6,041	5,661
	女	14,960	1,089	10,904	2,066	901
	計	58,731	1,201	42,861	8,107	6,562
平成29年度	男	44,484	100	32,790	4,788	6,806
	女	14,920	1,003	10,995	1,762	1,160
	計	59,404	1,103	43,785	6,550	7,966
平成28年度	男	46,684	113	35,086	4,416	7,069
	女	16,015	953	11,734	1,865	1,463
	計	62,699	1,066	46,820	6,281	8,532
平成27年度	男	47,001	104	35,276	4,223	7,398
	女	16,440	1,073	11,803	1,796	1,768
	計	63,441	1,177	47,079	6,019	9,166
平成26年度	男	50,209	150	36,166	4,292	9,601
	女	17,909	1,663	11,728	2,271	2,241
	計	68,118	1,813	47,894	6,569	11,842



2 - 2 献血不適格者数

献血を希望する人については、採血前に血圧測定、血色素量検査（平成22年度までは血液比重検査又は血色素量検査）問診等の健康診断を実施し、採血するのに適格かどうかを採血基準に従って判断します。

平成30年度は、献血希望者の9.2%にあたる5,382人の方が採血基準に合致せず献血不適格者になっています。

このうち、血色素量検査で採血基準に不適格となり献血できない人は献血希望者の4.1%にあたる2,409人であり、男女別にみると、男性の献血希望者では1.2%にすぎないのに対し、女性の献血希望者では12.6%にものぼり、献血にせつかく応じてくださった方々の善意を十分に活かすことができないという結果が表れています。

このような女性の血色素不足は必ずしも女性の不健康を示すものではなく、男女の血液中の赤血球数の違いによるものです。一般的には健康な人の場合1mm³中の赤血球数は男性で500万個、女性で450万個と言われており、この赤血球数の量的な差異が男女の血色素の差となっているのです。

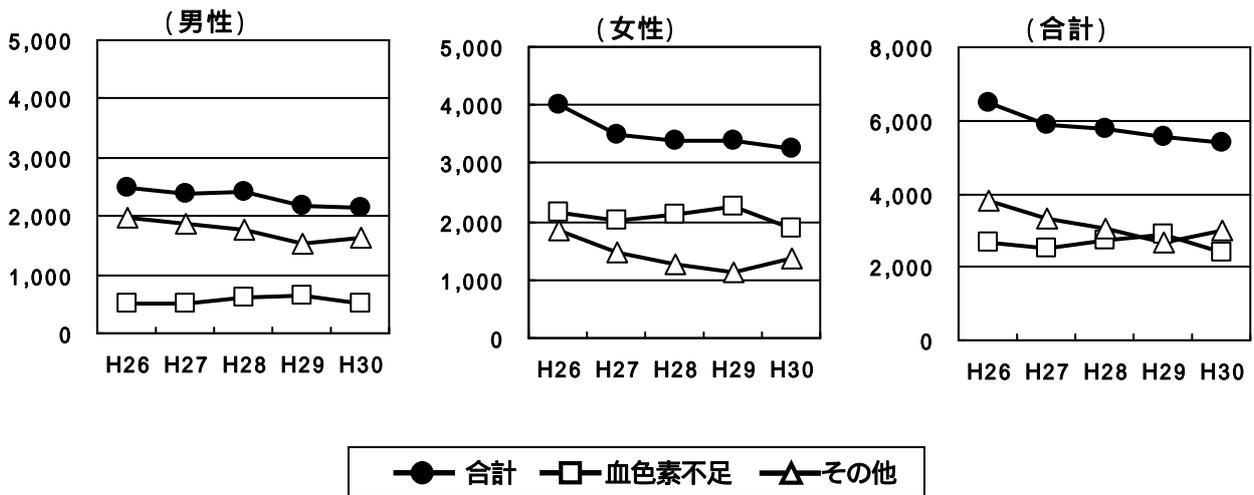
従って、女性の方には多くの患者さんが必要とする成分だけを採取し赤血球などは体内にお返しする成分献血が適していると言われてしています。

なお、日本人の血色素量の標準範囲は、男性13.3～17.4g/dL、女性11.2～14.9g/dLとされています。

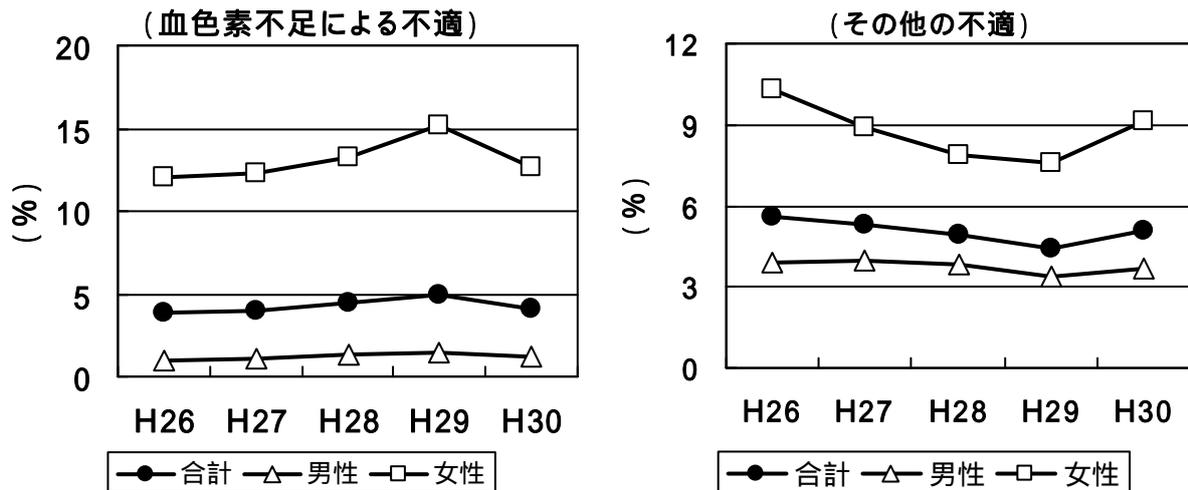
【 献血希望者及び献血不適格者数の経年変化 】

年度	区分	献血希望者数 A	献血不適格者				不合格率 B/A×100	血色素不足率 C/A×100
			合計 B	血色素不足 C	その他			
平成30年度	男性	43,771	2,135	518	1,617	4.9%	1.2%	
	女性	14,960	3,247	1,891	1,356	21.7%	12.6%	
	計	58,731	5,382	2,409	2,973	9.2%	4.1%	
平成29年度	男性	44,484	2,164	645	1,519	4.9%	1.4%	
	女性	14,920	3,398	2,262	1,136	22.8%	15.2%	
	計	59,404	5,562	2,907	2,655	9.4%	4.9%	
平成28年度	男性	46,684	2,398	624	1,774	5.1%	1.3%	
	女性	16,015	3,386	2,117	1,269	21.1%	13.2%	
	計	62,699	5,784	2,741	3,043	9.2%	4.4%	
平成27年度	男性	47,001	2,379	514	1,865	5.1%	1.1%	
	女性	16,440	3,486	2,016	1,470	21.2%	12.3%	
	計	63,441	5,865	2,530	3,335	9.2%	4.0%	
平成26年度	男性	50,209	2,487	511	1,976	5.0%	1.0%	
	女性	17,909	4,005	2,158	1,847	22.4%	12.0%	
	計	68,118	6,492	2,669	3,823	9.5%	3.9%	

【 献血不適格者数の経年変化 】



【 献血不適合者率の経年変化 】

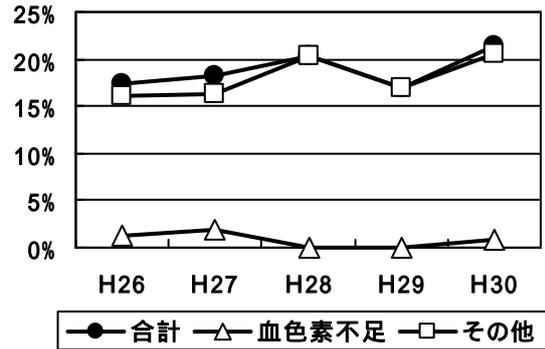
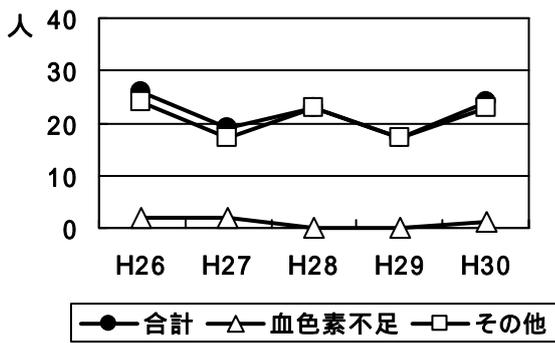


【 献血種類別献血不適格者数の経年変化（県全体） 】

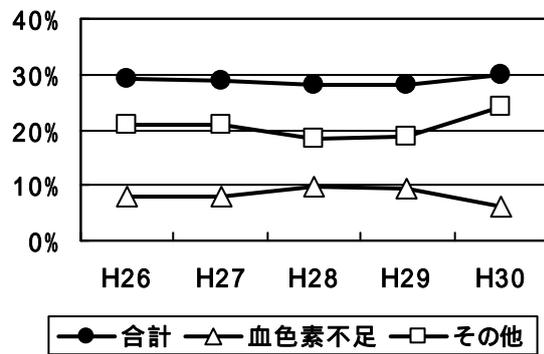
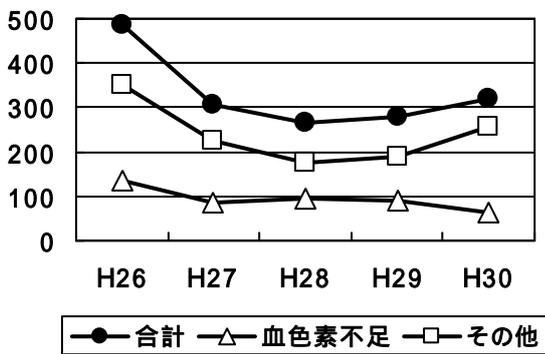
その1

年度	区分	献血希望者 A	献血不適格者					
			合計 B	血色素不足 C	その他	不適格率 B/A×100	血色素不足率 C/A×100	
2020 mL	平成30年度	男性	112	24	1	23	21.4%	0.9%
		女性	1,069	321	64	257	30.0%	6.0%
		計	1,201	345	65	280	28.7%	5.4%
	平成29年度	男性	100	17	0	17	17.0%	0.0%
		女性	1,003	281	92	189	28.0%	9.2%
		計	1,103	298	92	206	27.0%	8.3%
	平成28年度	男性	113	23	0	23	20.3%	0.0%
		女性	953	268	93	175	28.1%	9.8%
		計	1,066	291	93	198	27.3%	8.7%
	平成27年度	男性	104	19	2	17	18.3%	1.9%
		女性	1,073	308	85	223	28.7%	7.9%
		計	1,177	327	87	240	27.8%	7.4%
平成26年度	男性	150	26	2	24	17.3%	1.3%	
	女性	1,663	485	135	350	29.2%	8.1%	
	計	1,813	511	137	374	28.2%	7.6%	
2020 mL	平成30年度	男性	31,957	1,751	447	1,304	5.5%	1.4%
		女性	10,904	2,672	1,704	968	24.5%	15.6%
		計	42,861	4,423	2,151	2,272	10.3%	5.0%
	平成29年度	男性	32,790	1,866	573	1,293	5.7%	1.7%
		女性	10,995	2,835	2,017	818	25.8%	18.3%
		計	43,785	4,701	2,590	2,111	10.7%	5.9%
	平成28年度	男性	35,086	2,052	540	1,512	5.9%	1.5%
		女性	11,734	2,766	1,807	959	23.6%	15.4%
		計	46,820	4,818	2,347	2,471	10.3%	5.0%
	平成27年度	男性	35,276	2,004	439	1,565	5.7%	1.2%
		女性	11,803	2,699	1,674	1,025	22.9%	14.2%
		計	47,079	4,703	2,113	2,590	10.0%	4.5%
平成26年度	男性	36,166	2,073	438	1,635	5.7%	1.2%	
	女性	11,728	2,856	1,617	1,239	24.4%	13.8%	
	計	47,894	4,929	2,055	2,874	10.3%	4.3%	

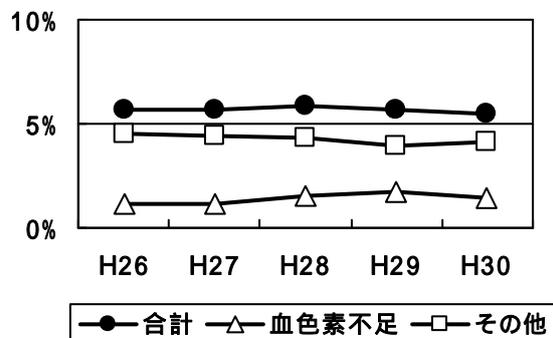
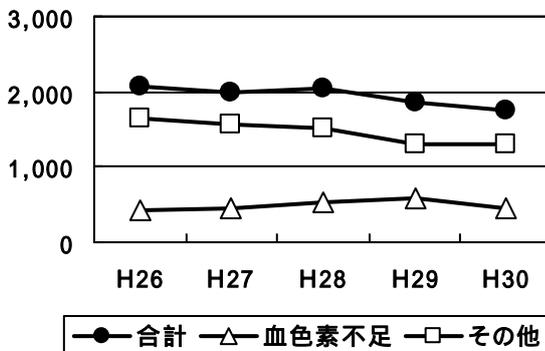
【 男性の200mL献血不適格者数及び不適格率の経年変化 】



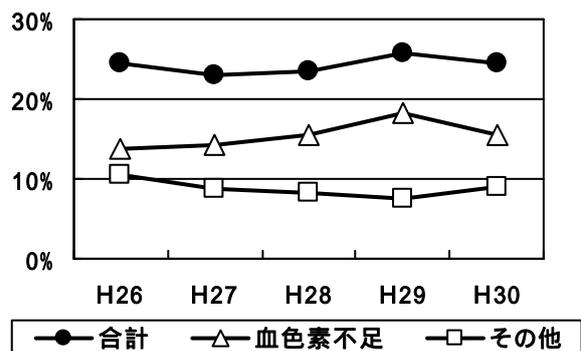
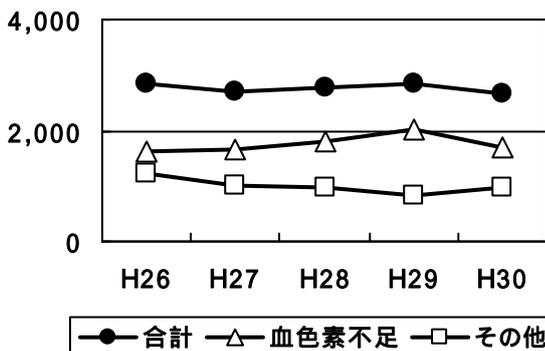
【 女性の200mL献血不適格者数及び不適格率の経年変化 】



【 男性の400mL献血不適格者数及び不適格率の経年変化 】



【 女性の400mL献血不適格者数及び不適格率の経年変化 】

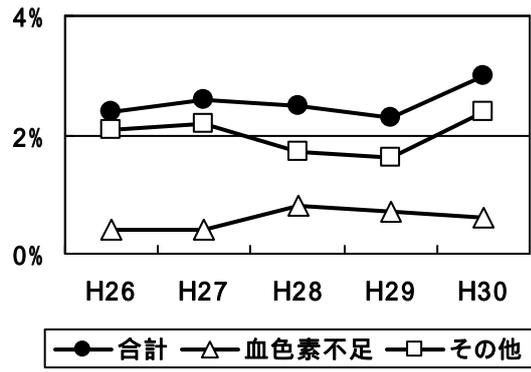
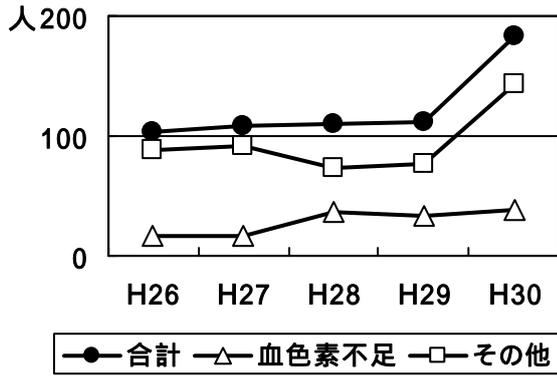


【 献血種類別献血不適格者数の経年変化（県全体） 】

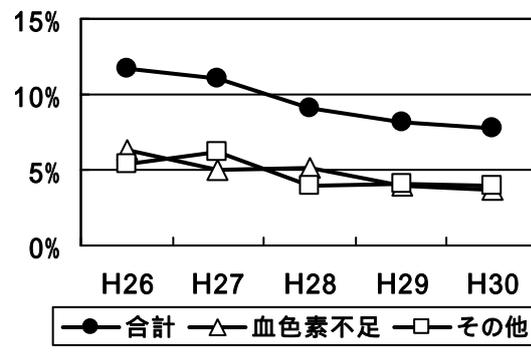
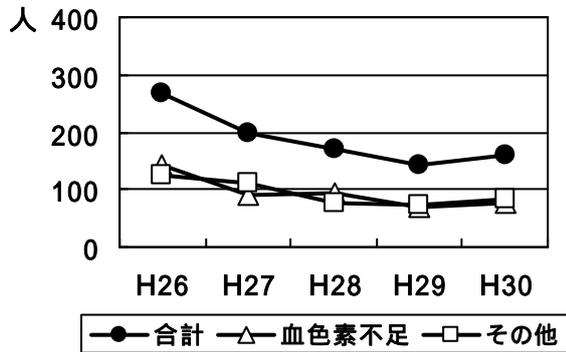
その2

年度	区分	献血希望者 A	献血不適格者					
			合計 B	血色素不足 C	その他	不適格率 B/A×100	血色素不足率 C/A×100	
血漿成分	平成30年度	男性	6,041	183	39	144	3.0%	0.6%
		女性	2,066	160	77	83	7.7%	3.7%
		計	8,107	343	116	227	4.2%	1.4%
	平成29年度	男性	4,788	111	34	77	2.3%	0.7%
		女性	1,762	144	71	73	8.2%	4.0%
		計	6,550	255	105	150	3.9%	1.6%
	平成28年度	男性	4,416	110	36	74	2.5%	0.8%
		女性	1,865	170	95	75	9.1%	5.1%
		計	6,281	280	131	149	4.5%	2.1%
	平成27年度	男性	4,223	108	17	91	2.6%	0.4%
		女性	1,796	200	89	111	11.1%	5.0%
		計	6,019	308	106	202	5.1%	1.8%
平成26年度	男性	4,292	104	16	88	2.4%	0.4%	
	女性	2,277	267	143	124	11.7%	6.3%	
	計	6,569	371	159	212	5.6%	2.4%	
血小板成分	平成30年度	男性	5,661	177	31	146	3.1%	0.5%
		女性	901	94	46	48	10.4%	5.1%
		計	6,562	271	77	194	4.1%	1.2%
	平成29年度	男性	6,806	170	38	132	2.5%	0.6%
		女性	1,160	138	82	56	11.9%	7.1%
		計	7,766	308	120	188	4.0%	1.6%
	平成28年度	男性	7,069	213	48	165	3.0%	0.7%
		女性	1,463	182	122	60	12.4%	8.3%
		計	8,532	395	170	225	4.6%	2.0%
	平成27年度	男性	7,398	248	56	192	3.4%	0.8%
		女性	1,768	279	168	111	15.8%	9.5%
		計	9,166	527	224	303	5.7%	2.4%
平成26年度	男性	9,601	284	55	229	3.0%	0.6%	
	女性	2,241	397	263	134	17.7%	11.7%	
	計	11,842	681	318	363	5.8%	2.7%	

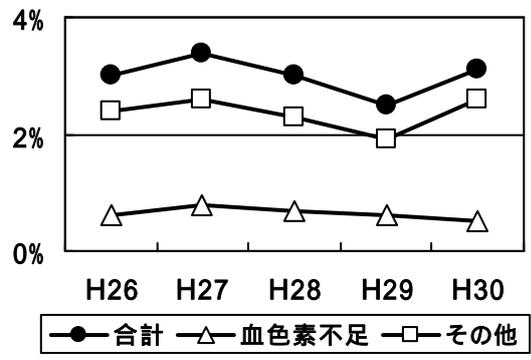
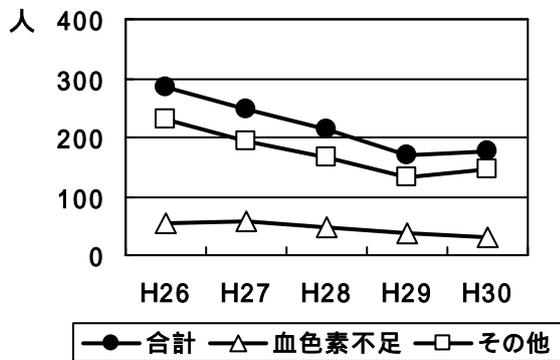
【 男性の血漿成分献血不適格者数及び不適格率の経年変化 】



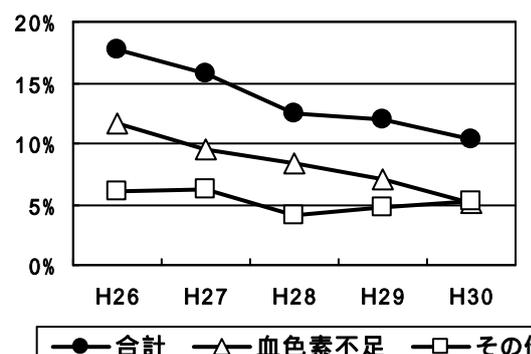
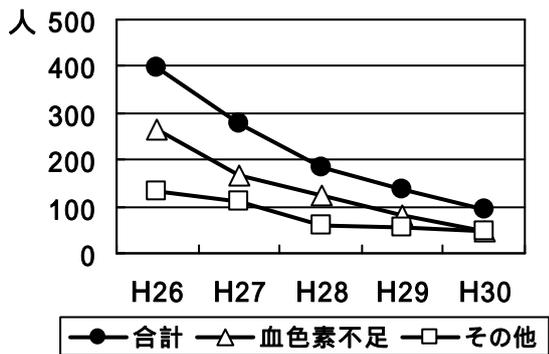
【 女性の血漿成分献血不適格者数及び不適格率の経年変化 】



【 男性の血小板成分献血不適格者数及び不適格率の経年変化 】



【 女性の血小板成分献血不適格者数及び不適格率の経年変化 】



2 - 3 献血者数

(1) 献血者の年度別推移

平成30年度は県人口の4.0%にあたる53,349人の方々に、合計21,789リットルの献血していただきました。献血者数は昭和60年度には約16万3千人の方々に献血していただいたのをピークに年々減少し、近年は6万人を下回っている状況です。献血量については平成3年度をピークに年々減少し、一時増加傾向に転じましたが、平成24年度以降また減少傾向になっております。

献血の種類別構成では、200mL献血は400mL献血・成分献血が導入された昭和61年以降年々減少する一方、400mL献血は増加傾向にあります。また、血漿成分献血は平成7年度以降1万人台で推移していましたが、平成18年度以降5～7千人台前後で推移しています。血小板成分献血は平成20年度からは1万人台を推移していましたが、平成27年度以降減少傾向に転じ、平成30年度は6千人台まで減少しています。

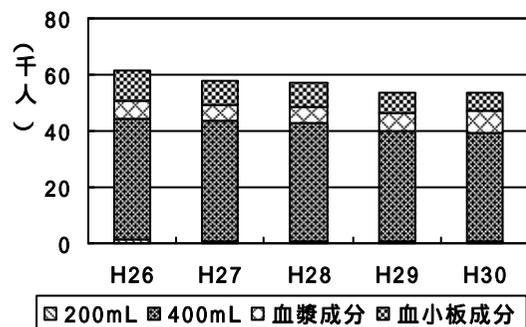
【 献血者数及び献血量の推移 】

年度	県人口 (人)	献血者数(人)					献血量 (L)	対前年度比(%)		所属別献血者数(人)	
		合計	200mL	400mL	血漿成分	血小板成分		献血者数	献血量	長崎県センター	佐世保出張所
S.39	1,675,170	4,072	4,072				814				4,072
S.40	1,641,245	8,724	8,724				1,745	214	214		8,724
S.41	1,637,292	16,410	16,410				3,282	188	188		16,410
S.42	1,632,039	30,612	30,612				6,122	187	187		30,612
S.43	1,616,351	32,604	32,604				6,521	107	107		32,604
S.44	1,601,266	36,195	36,195				7,239	111	111		36,195
S.45	1,570,245	36,852	36,852				7,370	102	102		36,852
S.46	1,559,178	41,739	41,739				8,348	113	113	20,118	21,621
S.47	1,553,509	44,285	44,285				8,857	106	106	22,095	22,190
S.48	1,547,541	51,024	51,024				10,205	115	115	25,191	25,833
S.49	1,551,682	55,370	55,370				11,074	109	109	27,749	27,621
S.50	1,571,919	53,239	53,239				10,648	96	96	28,421	24,818
S.51	1,576,857	59,355	59,355				11,871	112	112	34,519	24,836
S.52	1,584,201	73,361	73,361				14,672	124	124	44,198	29,163
S.53	1,588,723	86,678	86,678				17,336	118	118	52,085	34,593
S.54	1,590,292	95,494	95,494				19,099	110	110	55,173	40,321
S.55	1,590,554	105,967	105,967				21,193	111	111	63,609	42,358
S.56	1,593,140	127,959	127,959				25,592	121	121	77,658	50,301
S.57	1,593,857	140,693	140,693				28,139	110	110	87,448	53,245
S.58	1,594,009	149,297	149,297				29,859	106	106	91,856	57,441
S.59	1,593,820	158,365	158,365				31,673	106	106	97,910	60,455
S.60	1,594,854	163,051	163,051				32,610	103	103	104,118	58,933
S.61	1,590,948	146,771	124,973	21,022	29	747	33,584	90	103	93,107	53,664
S.62	1,586,191	136,566	103,753	31,198	63	1,552	33,525	93	100	86,533	50,033
S.63	1,582,270	134,078	98,314	33,679	205	1,880	33,547	98	100	85,293	48,785
H.1	1,574,269	127,623	88,677	35,173	1,558	2,215	32,830	95	98	80,584	47,039

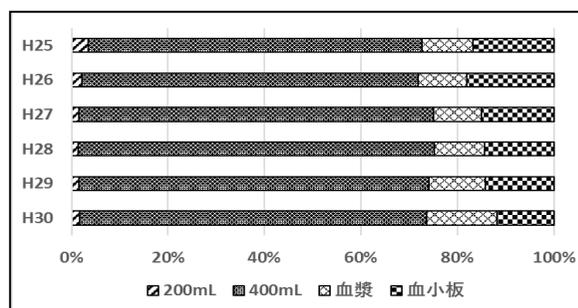
年度	県人口 (人)	献血者数(人)					献血量 (L)	対前年度比(%)		所属別献血者数(人)	
		合計	200mL	400mL	血漿成分	血小板成分		献血者数	献血量	長崎県センター	佐世保出張所
H. 2	1,563,606	123,743	75,531	34,885	11,234	2,093	34,282	97	104	77,540	46,203
H. 3	1,557,074	128,806	64,622	37,116	24,603	2,465	38,741	104	113	75,904	52,902
H. 4	1,552,534	118,036	51,447	39,850	24,035	2,704	37,444	92	97	71,748	46,288
H. 5	1,550,556	105,405	37,611	41,445	22,306	4,043	35,166	89	94	64,034	41,371
H. 6	1,548,432	97,207	25,140	45,204	21,991	4,872	34,813	92	99	60,366	36,841
H. 7	1,545,309	98,835	25,629	50,189	16,144	6,873	34,355	102	99	59,790	39,045
H. 8	1,541,732	98,817	24,840	50,195	15,216	8,566	34,015	100	99	62,934	35,883
H. 9	1,537,065	99,821	24,483	49,883	15,558	9,897	34,279	101	101	62,237	37,584
H. 10	1,531,235	91,213	18,124	46,997	16,944	9,148	32,297	91	94	56,333	34,880
H. 11	1,526,394	84,234	15,251	44,934	15,320	8,729	29,504	92	91	52,799	31,435
H. 12	1,516,099	75,582	10,853	41,846	15,299	7,584	27,111	90	92	47,365	28,217
H. 13	1,511,135	70,507	8,376	38,441	15,139	8,551	25,449	93	94	44,445	26,062
H. 14	1,504,915	68,751	9,350	37,810	13,267	8,324	24,223	97	95	42,253	26,498
H. 15	1,499,303	68,498	10,201	37,746	12,010	8,541	24,006	100	99	39,876	28,622
H. 16	1,491,243	66,241	11,026	35,654	11,314	8,247	22,790	97	95	38,058	28,183
H. 17	1,480,091	64,974	10,049	36,873	10,246	7,806	22,611	98	99	37,620	27,354
H. 18	1,463,604	58,080	6,521	36,758	5,744	9,057	22,215	89	98	32,946	25,134
H. 19	1,450,789	58,291	3,882	39,163	5,428	9,818	22,811	100	103	33,110	25,181
H. 20	1,439,172	61,616	4,511	39,627	6,170	11,308	24,053	106	105	36,517	25,099
H. 21	1,430,062	65,511	3,653	43,539	7,675	10,644	25,858	106	108	39,519	25,992
H. 22	1,420,122	67,129	3,297	46,867	5,666	11,299	26,475	102	102	40,658	26,471
H. 23	1,414,835	68,387	2,624	48,282	6,065	11,416	27,133	102	102	40,827	27,560
H. 24	1,404,340	66,204	2,432	46,417	5,864	11,491	26,288	97	97	36,117	30,087
H. 25	1,393,159	63,603	2,136	44,095	6,726	10,646	25,400	96	97	35,765	27,838
H. 26	1,381,714	61,626	1,302	42,965	6,198	11,161	24,885	97	98	34,855	26,771
H. 27	1,372,898	57,576	850	42,376	5,711	8,639	23,317	93	94	33,526	24,050
H. 28	1,363,284	56,915	775	42,002	6,001	8,137	23,091	99	99	33,159	23,756
H. 29	1,348,529	53,842	805	39,084	6,295	7,658	21,879	90	95	31,581	22,261
H. 30	1,334,860	53,349	856	38,438	7,764	6,291	21,789	99	100	31,266	22,038
計		4,369,183	2,443,240	1,339,753	343,788	242,402	1,254,036			2,530,813	1,838,325

(注) 県人口：各年度3月1日現在

【 献血者数の経年変化 】



【 献血の種類別構成比率の経年変化 】



【 献血の種類別構成比(%)の推移 】

	200mL	400mL	血漿	血小板
H30	1.6%	72.1%	14.6%	11.8%
H29	1.5%	72.6%	11.7%	14.2%
H28	1.4%	73.8%	10.5%	14.3%
H27	1.5%	73.6%	9.9%	15.0%
H26	2.1%	69.7%	10.1%	18.1%

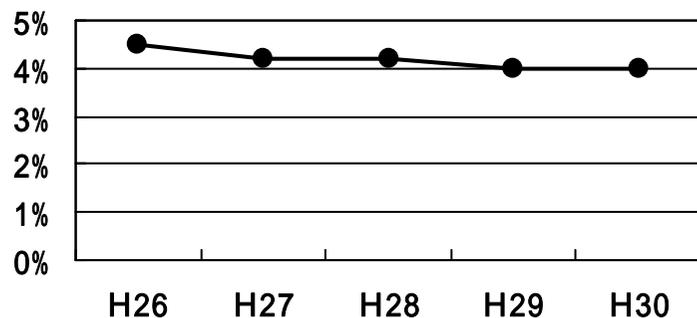
(2) 年度別献血目標、献血者数及び達成率

県においては県献血推進協議会にて協議し、毎年度ごとの献血目標を策定し、県下各市町及び血液センターと協力して献血者の安定確保に努めています。

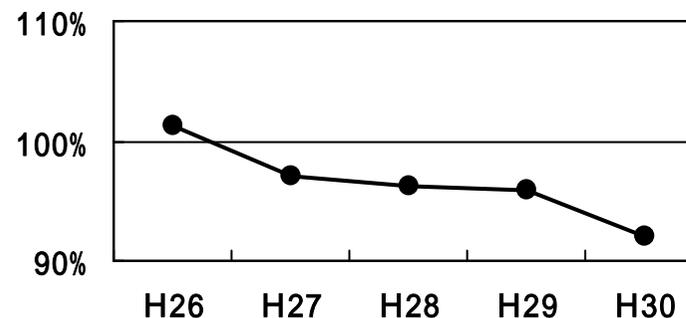
平成30年度は、献血目標を県全体で献血者数57,705人、献血量23,680リットルと策定して献血への協力をお願いしてきました。平成30年度は献血量21,789リットル、目標達成率92.0%となり、昨年度に続き目標を達成することができませんでした。減少した要因としては、献血可能人口の減少、特に若年層の献血者が減少していること、天候不良等による献血バスの運行中止などが考えられます。

平成30年度の献血実績を前年度と比較すると、200mL献血は51人増加、400mL献血は646人減少、血漿成分献血は1,469人増加、血小板成分献血は1,367人減少しています。

【 献血率の経年変化 】



【 達成率（献血量）の経年変化 】



区分 年度	献血目標						献血実績						400比 (%)	成分比 (%)	献血量 達成率 (%)
	献血者数(人)					献血量 (L)	献血者数(人)					献血量 (L)			
	200mL	400mL	血漿	血小板	計		200mL	400mL	血漿	血小板	計				
平成30年度	590	40,720	8,945	7,450	57,705	23,680	856	38,438	7,764	6,291	53,349	21,789.5	72.1%	26.3%	92.0%
長崎	187	12,903	5,619	4,680	23,389	9,767.7	260	10,680	3,768	3,089	17,797	7,368.2	60.0%	38.5%	75.4%
佐世保	111	7,637	3,326	2,770	13,844	5,781.5	311	8,000	3,996	3,202	15,509	6,461.1	51.6%	46.4%	111.8%
西彼	45	3,097			3,142	1,247.8	40	3,036			3,076	1,222.4	98.7%		98.0%
県央	121	8,349			8,470	3,363.8	152	9,093			9,245	3,667.6	98.4%		109.0%
県南	55	3,756			3,811	1,513.4	38	3,852			3,890	1,548.4	99.0%		102.3%
県北	27	1,874			1,901	755.0	21	1,151			1,172	464.6	98.2%		61.5%
五島	14	977			991	393.6	2	637			639	255.2	99.7%		64.8%
上五島	8	572			580	230.4	7	359			366	145.0	98.1%		62.9%
壱岐	10	705			715	284.0	15	768			783	310.2	98.1%		109.2%
対馬	12	850			862	342.4	10	862			872	346.8	98.9%		101.3%
その他	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0.0			
H29	780	40,790	6,440	8,180	56,190	22,835	805	39,084	6,295	7,658	53,842	21,879	72.6%	25.9%	95.8%
H28	680	42,120	6,920	9,380	59,100	24,058	775	42,002	6,001	8,137	56,915	23,091	73.8%	24.8%	96.0%
H27	1,040	43,770	4,500	10,360	59,670	24,020	850	42,376	5,711	8,639	57,576	23,317	73.6%	24.9%	97.1%
H26	2,060	43,470	6,520	9,130	61,180	24,582	1,302	42,965	6,198	11,161	61,626	24,886	69.7%	28.2%	101.2%

(注1) 献血率：各年度3月1日現在人口で算出

(注2) 献血量は換算量とする。

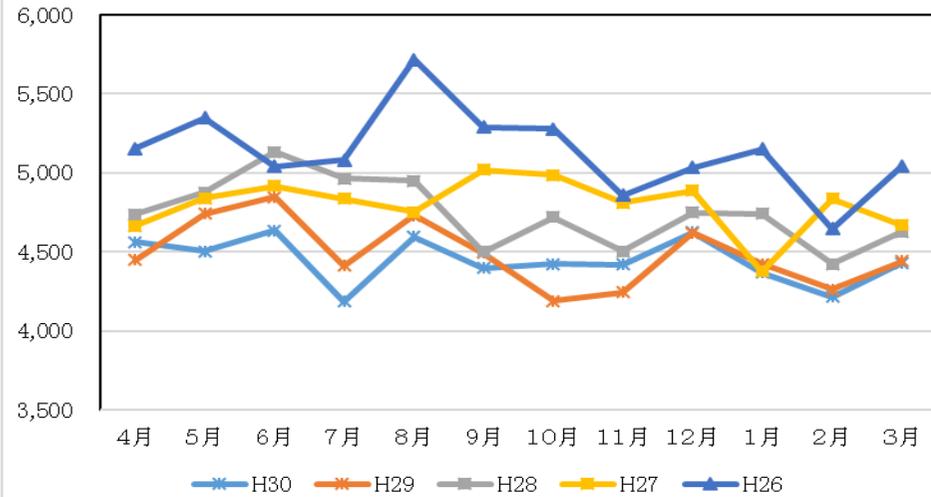
(3) 献血者の月別推移

献血者数の月別推移をみると、暑い夏や寒い冬の時期、3～4月の人事異動時期など季節的に献血者が減少しやすい時期があり、その一方で血液の需要は月別によって大きな差はないため、安定した血液の確保に努める必要があります。そのため、毎年7月に「愛の血液助け合い運動」を実施し、冬期には「クリスマス献血」キャンペーン(12月)や「はたちの献血」キャンペーン(1～2月)を実施するなど、年間を通じて恒常的な献血者の確保に努めております。

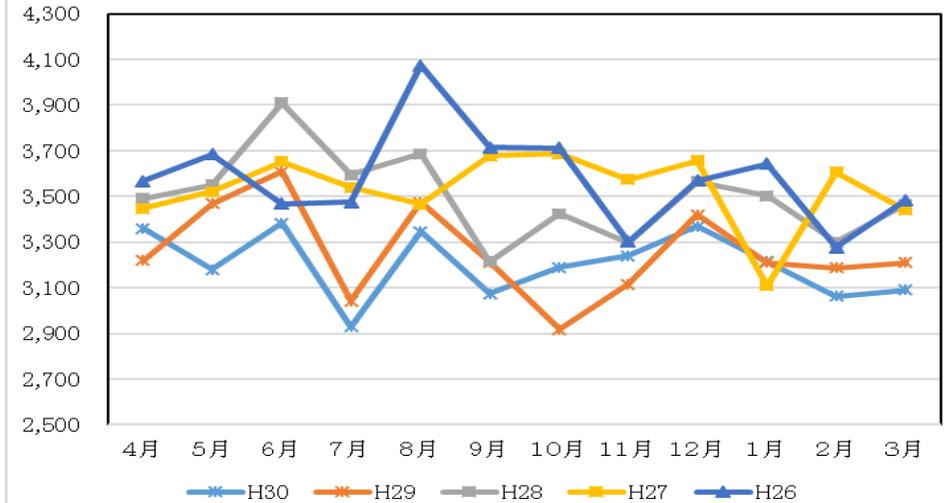
【 月別献血者数の経年変化 】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
平成30年度	4,560	4,501	4,636	4,186	4,593	4,395	4,423	4,417	4,624	4,368	4,215	4,431	53,349	4,446
200mL	64	77	62	81	63	75	84	67	71	62	74	76	856	71
400mL	3,359	3,180	3,383	2,929	3,347	3,074	3,189	3,240	3,370	3,215	3,062	3,090	38,438	3,203
血漿	504	605	631	642	661	716	667	594	664	626	622	832	7,764	647
血小板	633	639	560	534	522	530	483	516	519	465	457	433	6,291	524
平成29年度	4,447	4,741	4,848	4,410	4,729	4,493	4,187	4,244	4,618	4,423	4,261	4,441	53,842	4,487
200mL	66	78	69	70	63	65	70	57	63	70	61	73	805	67
400mL	3,219	3,469	3,609	3,043	3,474	3,212	2,917	3,115	3,420	3,211	3,186	3,209	39,084	3,257
血漿	478	542	589	640	595	618	558	439	474	440	412	510	6,295	525
血小板	684	652	581	657	597	598	642	633	661	702	602	649	7,658	638
平成28年度	4,735	4,877	5,133	4,963	4,947	4,500	4,720	4,503	4,749	4,741	4,421	4,626	56,915	4,743
200mL	84	42	62	83	66	76	63	56	44	66	70	63	775	65
400mL	3,490	3,551	3,911	3,595	3,686	3,215	3,425	3,298	3,564	3,503	3,299	3,465	42,002	3,500
血漿	425	553	528	629	534	547	534	468	417	478	419	469	6,001	500
血小板	736	731	632	656	661	662	698	681	724	694	633	629	8,137	678
平成27年度	4,664	4,838	4,916	4,836	4,750	5,017	4,984	4,810	4,885	4,373	4,834	4,669	57,576	4,798
200mL	55	42	48	61	52	112	95	66	60	77	88	94	850	71
400mL	3,447	3,521	3,653	3,540	3,465	3,678	3,686	3,574	3,656	3,109	3,607	3,440	42,376	3,531
血漿	526	570	491	501	490	492	465	419	419	493	447	398	5,711	476
血小板	636	705	724	734	743	735	738	751	750	694	692	737	8,639	720
平成26年度	5,152	5,347	5,039	5,080	5,717	5,289	5,276	4,858	5,034	5,148	4,644	5,042	61,626	5,136
200mL	122	122	118	114	113	119	109	92	84	103	106	100	1,302	109
400mL	3,566	3,685	3,467	3,474	4,074	3,714	3,712	3,302	3,569	3,642	3,276	3,484	42,965	3,580
血漿	580	594	510	501	522	529	456	515	443	566	457	525	6,198	517
血小板	884	946	944	991	1,008	927	999	949	938	837	805	933	11,161	930

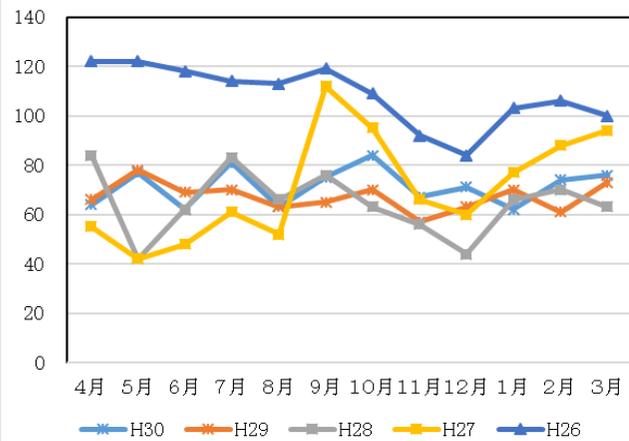
【 合計 】



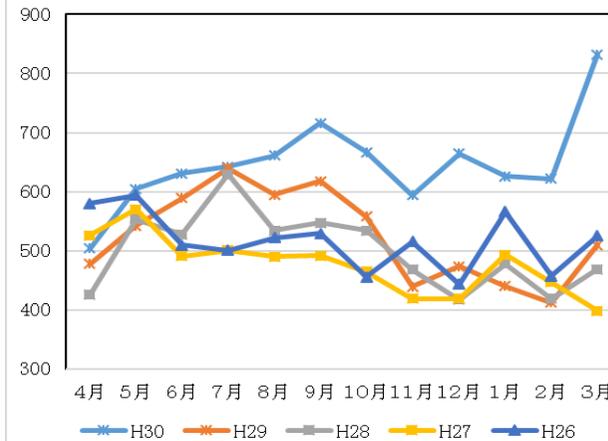
【 400mL献血 】



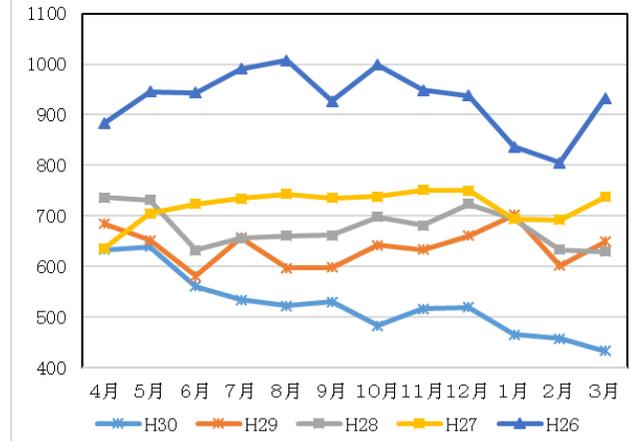
【 200mL献血 】



【 血漿成分献血 】



【 血小板献血 】



(4) 受け入れ施設別献血者数

長崎県では、各地域の団体、事業所、学校等の組織を対象とした献血バス、固定施設の献血ルームのほか、出張採血で献血者を受け入れています。受け入れ施設別の献血者数の推移を下の表に示しています。血液センター母体での受け入れは、献血ルーム「西海」受け入れ開始に伴い平成3年4月から佐世保赤十字血液センターが中止、長崎県血液センターでは平成27年4月から採血業務の効率化のため休止しています。

最近の5か年の状況をみると、出張採血の実施は少なく、献血ルームと献血バスでの受け入れがほとんどです。

平成30年度の受け入れ施設別構成比率は、献血ルームが42.1%、献血バスが57.9%と、昨年度並みの実績でした。

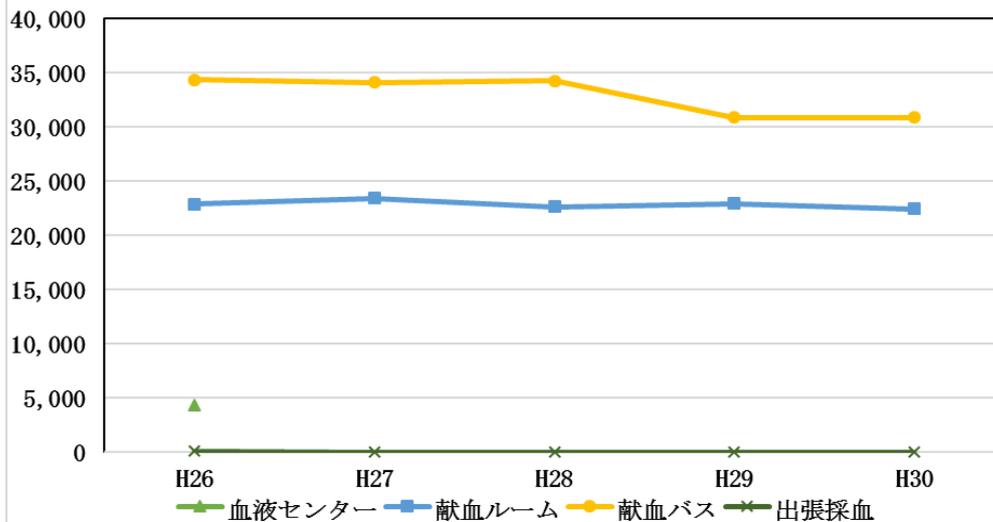
【 受け入れ施設別献血者数の推移（血液センター別） 】

区分 年度	献血者数	血液センター		献血ルーム		献血バス		出張採血		合計	
		長崎県	佐世保	長崎県	佐世保	長崎県	佐世保	長崎県	佐世保	長崎県	佐世保
平成30年度	53,349			22,457		30,892		0		53,349	0
	200mL	856		409		447				856	0
	400mL	38,438		7,993		30,445				38,438	0
	血漿	7,764		7,764		0				7,764	0
	血小板	6,291		6,291		0				6,291	0
平成29年度	53,842			22,934		30,908		0		53,842	0
	200mL	805		398		407				805	0
	400mL	39,084		8,583		30,501				39,084	0
	血漿	6,295		6,295						6,295	0
	血小板	7,658		7,658						7,658	0
平成28年度	56,915			22,638		34,277		0		56,915	0
	200mL	775		354		421				775	0
	400mL	42,002		8,146		33,856				42,002	0
	血漿	6,001		6,001		0				6,001	0
	血小板	8,137		8,137		0				8,137	0
平成27年度	57,576			23,443		34,133		0		57,576	0
	200mL	850		425		425				850	0
	400mL	42,376		8,668		33,708				42,376	0
	血漿	5,711		5,711		0				5,711	0
	血小板	8,639		8,639		0				8,639	0
平成26年度	61,626	4,290		22,891		34,391		54		61,626	0
	200mL	1,302	64	527		708		3		1,302	0
	400mL	42,965	997	8,234		33,683		51		42,965	0
	血漿	6,198	941	5,257						6,198	0
	血小板	11,161	2,288	8,873						11,161	0

H26年度からシステム新規入れ替えのため、長崎県全体としてのみ表示

H27年度から血液センター母体での採血業務休止

【 受け入れ施設別献血者数の経年変化 】

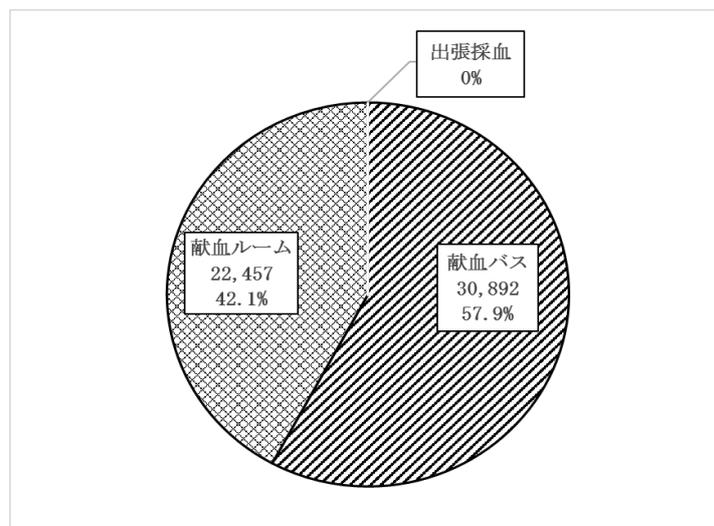


【 献血者の受け入れ施設別構成比の経年変化 】

[長 崎 県 全 体]

	血液センター	献血ルーム	献血バス	出張採血
平成30年度	-	42.1%	57.9%	0.0%
平成29年度	-	42.6%	57.4%	0.0%
平成28年度	-	42.6%	60.2%	0.0%
平成27年度	-	40.7%	59.3%	0.0%
平成26年度	7.0%	37.1%	55.8%	0.1%

【 平成30年度受け入れ施設別献血者構成比(%) 】



(5) 性別献血者数

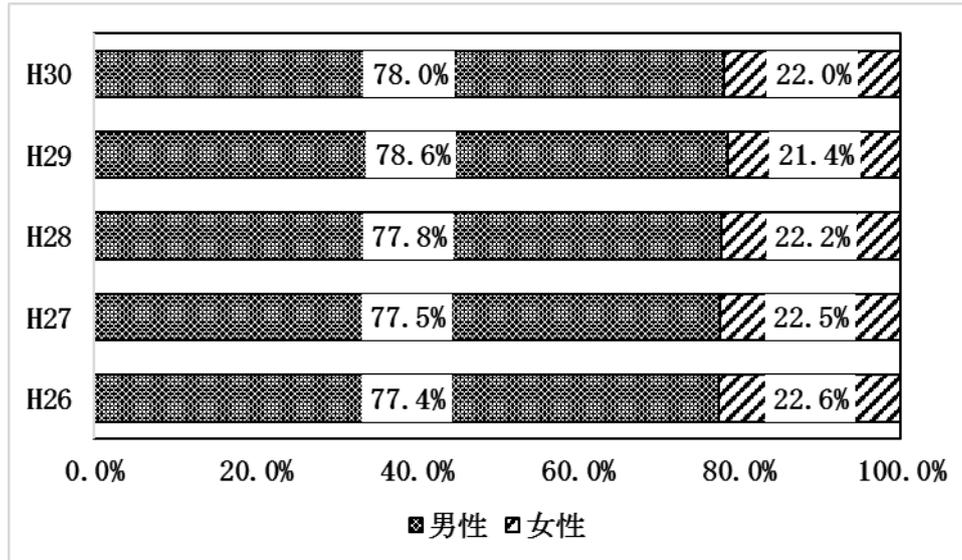
全献血者の男女別構成比をみると、平成30年度は男性が78.0%、女性が22.0%となっています。ここ数年は男女比に大きな変化は見られません。

献血の種類別に男女別構成比をみると、400mL献血、血漿成分献血、血小板成分献血は男性の割合が高く、それぞれ78.6%、75.5%、87.2%となっています。一方、200mL献血は女性の割合が89.7%と高くなっています。

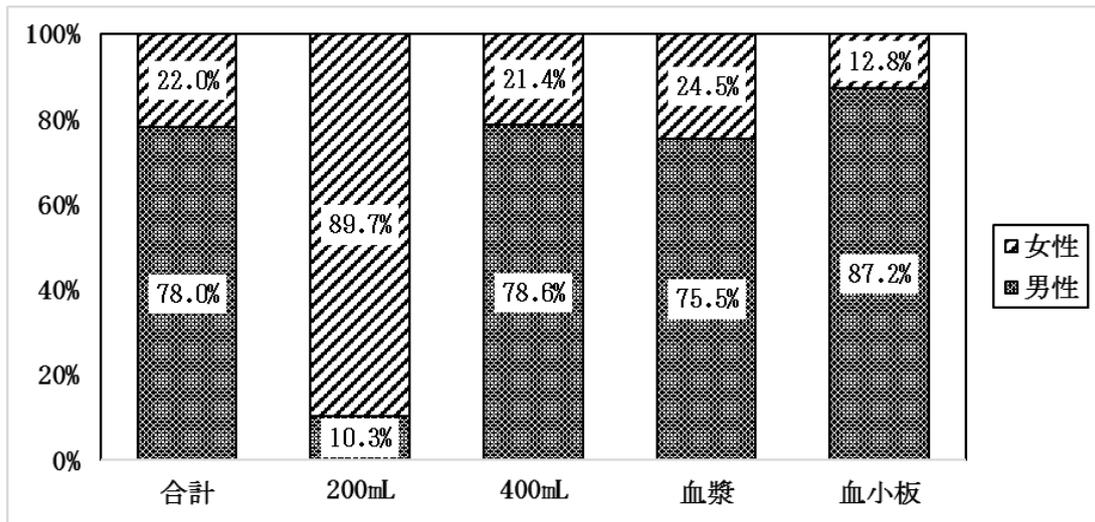
【 性別献血者数の経年変化 】

	男性		女性		合計	
	献血者	割合	献血者	割合		
平成30年度	41,636	78.0%	11,713	22.0%	53,349	
	200mL	88	10.3%	768	89.7%	856
	400mL	30,206	78.6%	8,232	21.4%	38,438
	血漿	5,858	75.5%	1,906	24.5%	7,764
	血小板	5,484	87.2%	807	12.8%	6,291
平成29年度	42,320	78.6%	11,522	21.4%	53,842	
	200mL	83	10.3%	722	89.7%	805
	400mL	30,924	79.1%	8,160	20.9%	39,084
	血漿	4,677	74.3%	1,618	25.7%	6,295
	血小板	6,636	86.7%	1,022	13.3%	7,658
平成28年度	44,286	77.8%	12,629	22.2%	56,915	
	200mL	90	11.6%	685	88.4%	775
	400mL	33,034	78.6%	8,968	21.4%	42,002
	血漿	4,306	71.8%	1,695	28.2%	6,001
	血小板	6,856	84.3%	1,281	15.7%	8,137
平成27年度	44,622	77.5%	12,954	22.5%	57,576	
	200mL	85	10.0%	765	90.0%	850
	400mL	33,272	78.5%	9,104	21.5%	42,376
	血漿	4,115	72.1%	1,596	27.9%	5,711
	血小板	7,150	82.8%	1,489	17.2%	8,639
平成26年度	47,722	77.4%	13,904	22.6%	61,626	
	200mL	124	9.5%	1,178	90.5%	1,302
	400mL	34,093	79.4%	8,872	20.6%	42,965
	血漿	4,188	67.6%	2,010	32.4%	6,198
	血小板	9,317	83.5%	1,844	16.5%	11,161

【 性別献血者構成比率の推移 】



【 平成30年度性別献血者構成比率 】



(6) 年齢別献血者数

献血者数を年齢別にみると、50歳以上が最も多く、平成30年度では全体に占める割合が35.4%となっており、次いで40～49歳 27.8%、30～39歳 18.0% の順となっています。

献血の種類別にみると、200mL献血では29歳以下が多く、400mL献血、血漿献血、血小板献血では40歳以上が多くなっています。また、40歳以上の方が占める割合は年々上昇し、逆に39歳以下の献血者は、年々減少しています。10代及び20代の献血者全体に占める割合をみると、平成26年度は21.6%、平成30年度では18.8%と5年間で2.8%減少しており、若年層の献血者確保が課題となっています。

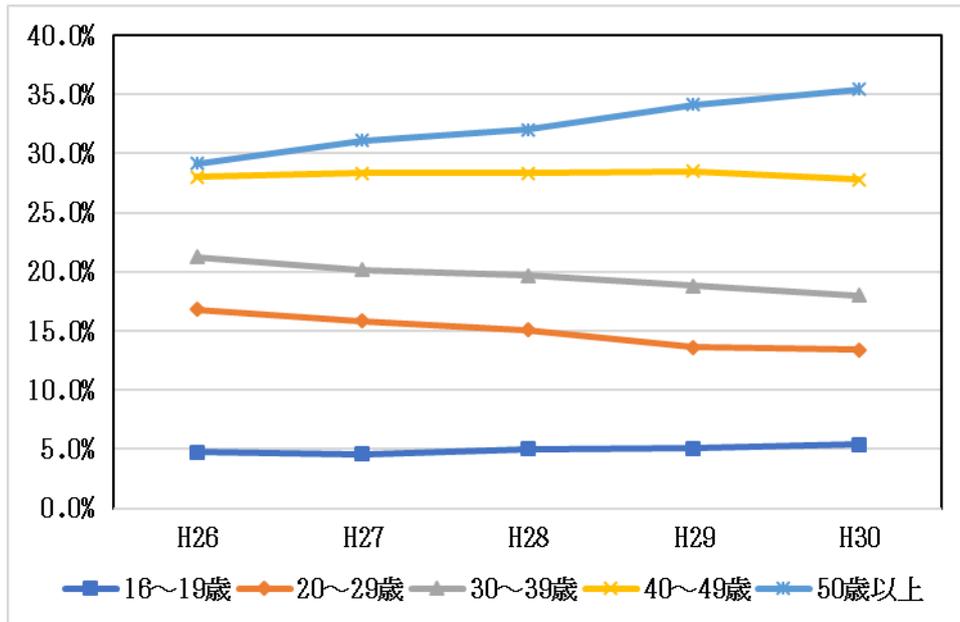
なお、平成11年4月からは、200mL及び400mL献血並びに血漿成分献血の献血可能年齢が従来の64歳から69歳に引き上げられ、平成23年4月からは、男性に限り400mL献血可能年齢が18歳から17歳に引き下げられ、血小板成分献血可能年齢は54歳から69歳に引き上げられました。

(注：65歳から69歳の方は、60歳から64歳までの間に献血経験がある方に限る。)

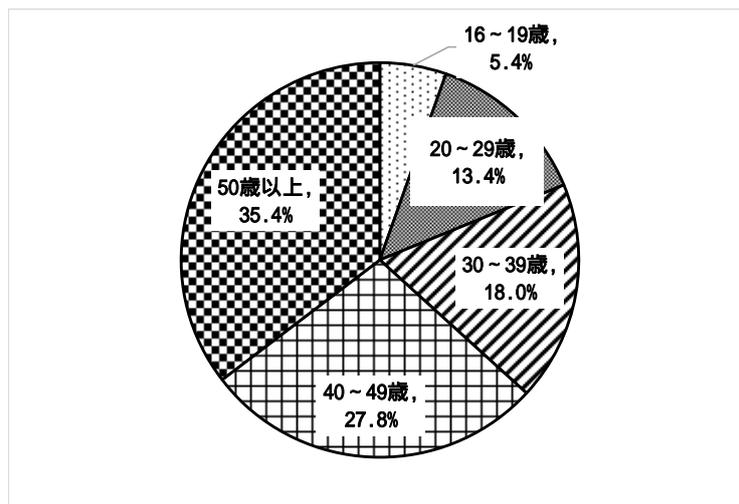
【 年齢別献血者数の経年変化 】

	16～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50歳以上		合計	
	献血者	割合	献血者	割合	献血者	割合	献血者	割合	献血者	割合		
平成30年度	2,863	5.4%	7,148	13.4%	9,625	18.0%	14,813	27.8%	18,900	35.4%	53,349	
200mL	291	34.0%	238	27.8%	109	12.7%	87	10.2%	131	15.3%	856	
	400mL	2,435	6.3%	5,536	14.4%	7,029	18.3%	10,528	27.4%	12,910	33.6%	38,438
	血漿	94	1.2%	843	10.9%	1,339	17.2%	2,050	26.4%	3,438	44.3%	7,764
	血小板	43	0.7%	531	8.4%	1,148	18.2%	2,148	34.1%	2,421	38.5%	6,291
平成29年度	2,732	5.1%	7,312	13.6%	10,112	18.8%	15,326	28.5%	18,360	34.1%	53,842	
200mL	240	29.8%	219	27.2%	99	12.3%	104	12.9%	143	17.8%	805	
	400mL	2,408	6.2%	5,801	14.8%	7,342	18.8%	10,909	27.9%	12,624	32.3%	39,084
	血漿	45	0.7%	650	10.3%	1,152	18.3%	1,700	27.0%	2,748	43.7%	6,295
	血小板	39	0.5%	642	8.4%	1,519	19.8%	2,613	34.1%	2,845	37.2%	7,658
平成28年度	2,831	5.0%	8,582	15.1%	11,184	19.7%	16,097	28.3%	18,221	32.0%	56,915	
200mL	200	25.8%	188	24.3%	123	15.9%	106	13.7%	158	20.4%	775	
	400mL	2,516	6.0%	6,808	16.2%	8,116	19.3%	11,612	27.6%	12,950	30.8%	42,002
	血漿	41	0.7%	704	11.7%	1,197	19.9%	1,668	27.8%	2,391	39.8%	6,001
	血小板	74	0.9%	882	10.8%	1,748	21.5%	2,711	33.3%	2,722	33.5%	8,137
平成27年度	2,629	4.6%	9,115	15.8%	11,623	20.2%	16,305	28.3%	17,904	31.1%	57,576	
200mL	191	22.5%	207	24.4%	126	14.8%	129	15.2%	197	23.2%	850	
	400mL	2,326	5.5%	7,067	16.7%	8,448	19.9%	11,738	27.7%	12,797	30.2%	42,376
	血漿	43	0.8%	750	13.1%	1,207	21.1%	1,519	26.6%	2,192	38.4%	5,711
	血小板	69	0.8%	1,091	12.6%	1,842	21.3%	2,919	33.8%	2,718	31.5%	8,639
平成26年度	2,935	4.8%	10,353	16.8%	13,100	21.3%	17,267	28.0%	17,971	29.2%	61,626	
200mL	239	18.4%	316	24.3%	228	17.5%	234	18.0%	285	21.9%	1,302	
	400mL	2,508	5.8%	7,575	17.6%	9,055	21.1%	11,648	27.1%	12,179	28.3%	42,965
	血漿	73	1.2%	945	15.2%	1,249	20.2%	1,709	27.6%	2,222	35.9%	6,198
	血小板	115	1.0%	1,517	13.6%	2,568	23.0%	3,676	32.9%	3,285	29.4%	11,161

【 年齢別献血者数の経年変化 】



【 平成30年度年齢別献血者構成比 】



【 平成 30 年度献血推進ポスターコンクール 】



中校の部 最優秀賞
諫早市立諫早中学校3年
吉村 水希 さん

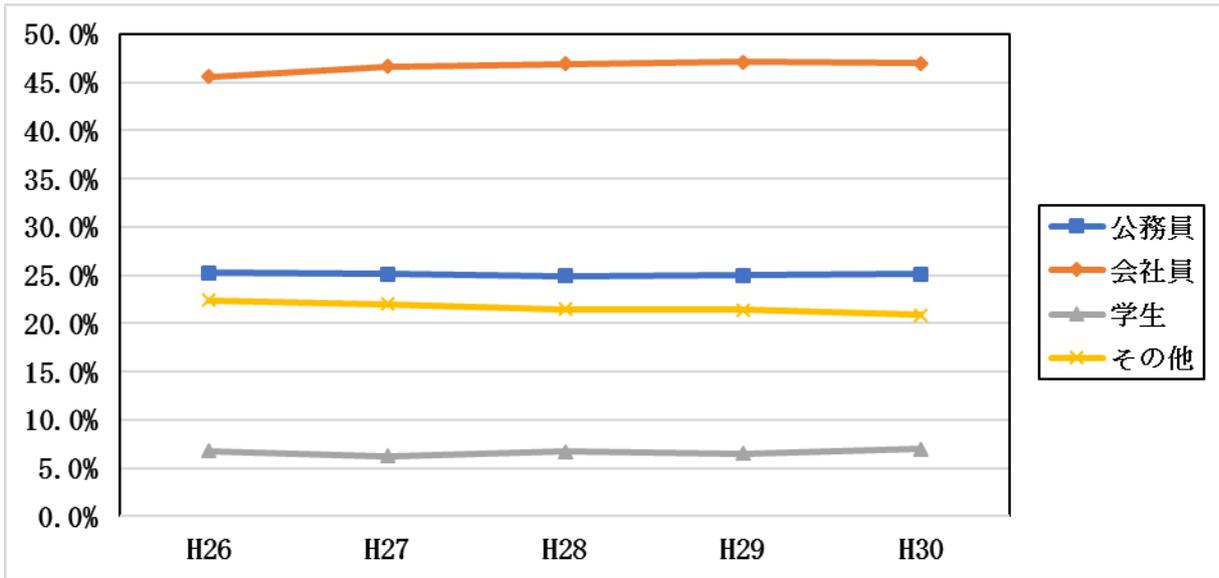
(7) 職業別献血者数

献血者数を職業別にみると、平成29年度は献血者全体で会社員が25,076人(47.0%)と最も多く、次いで公務員13,372人(25.1%)の順となっています。また、職業別構成比についてはここ数年大きな変化は見られません。

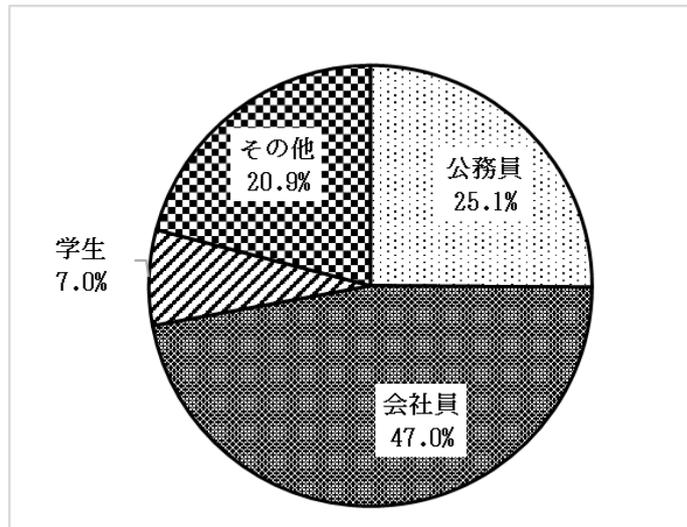
【 職業別献血者数の経年変化 】

	公務員		会社員		学生		その他		合計	
	献血者	割合	献血者	割合	献血者	割合	献血者	割合		
平成30年度	13,372	25.1%	25,076	47.0%	3,747	7.0%	11,154	20.9%	53,349	
	200mL	52	6.1%	302	35.3%	324	37.9%	178	20.8%	856
	400mL	9,784	25.5%	18,297	47.6%	3,067	8.0%	7,290	19.0%	38,438
	血漿	1,920	24.7%	3,450	44.4%	245	3.2%	2,149	27.7%	7,764
	血小板	1,616	25.7%	3,027	48.1%	111	1.8%	1,537	24.4%	6,291
平成29年度	13,468	25.0%	25,349	47.1%	3,477	6.5%	11,548	21.4%	53,842	
	200mL	61	7.6%	244	30.3%	285	35.4%	215	26.7%	805
	400mL	9,939	25.4%	18,548	47.5%	2,940	7.5%	7,657	19.6%	39,084
	血漿	1,541	24.5%	2,818	44.8%	128	2.0%	1,808	28.7%	6,295
	血小板	1,927	25.2%	3,739	48.8%	124	1.6%	1,868	24.4%	7,658
平成28年度	14,183	24.9%	26,688	46.9%	3,813	6.7%	12,231	21.5%	56,915	
	200mL	63	8.1%	265	34.2%	230	29.7%	217	28.0%	775
	400mL	10,528	25.1%	19,902	47.4%	3,258	7.8%	8,314	19.8%	42,002
	血漿	1623	27.0%	2,544	42.4%	146	2.4%	1,688	28.1%	6,001
	血小板	1969	24.2%	3,977	48.9%	179	2.2%	2,012	24.7%	8,137
平成27年度	14,448	25.1%	26,849	46.6%	3,605	6.3%	12,674	22.0%	57,576	
	200mL	57	6.7%	287	33.8%	236	27.8%	270	31.8%	850
	400mL	10,714	25.3%	20,129	47.5%	2,963	7.0%	8,570	20.2%	42,376
	血漿	1478	25.9%	2,397	42.0%	161	2.8%	1,675	29.3%	5,711
	血小板	2199	25.5%	4,036	46.7%	245	2.8%	2,159	25.0%	8,639
平成26年度	15,583	25.3%	28,073	45.6%	4,174	6.8%	13,796	22.4%	61,626	
	200mL	125	9.6%	434	33.3%	285	21.9%	458	35.2%	1,302
	400mL	11,173	26.0%	19,938	46.4%	3,254	7.6%	8,600	20.0%	42,965
	血漿	1521	24.5%	2,477	40.0%	232	3.7%	1,968	31.8%	6,198
	血小板	2764	24.8%	5,224	46.8%	403	3.6%	2,770	24.8%	11,161

【 職業別構成比の経年変化 】



【 平成30年度職業別献血者構成比 】



【 平成 30 年度献血推進ポスターコンクール 】



中学校の部 優秀賞
島原市立第三中学校 3年
中村 瑚桃 さん



中学校の部 優秀賞
佐世保市立世知原中学校 3年
張原 萌鈴 さん

(8) 高校生の献血状況

高校生の献血は、校長先生はじめ諸先生・学校医並びに保護者の皆様のご理解とご協力により、学校単位の集団献血が行われています。さらに、学校内だけでなく街頭においても献血協力の呼びかけを行うなどご協力をいただいております、他の献血者の手本となっています。

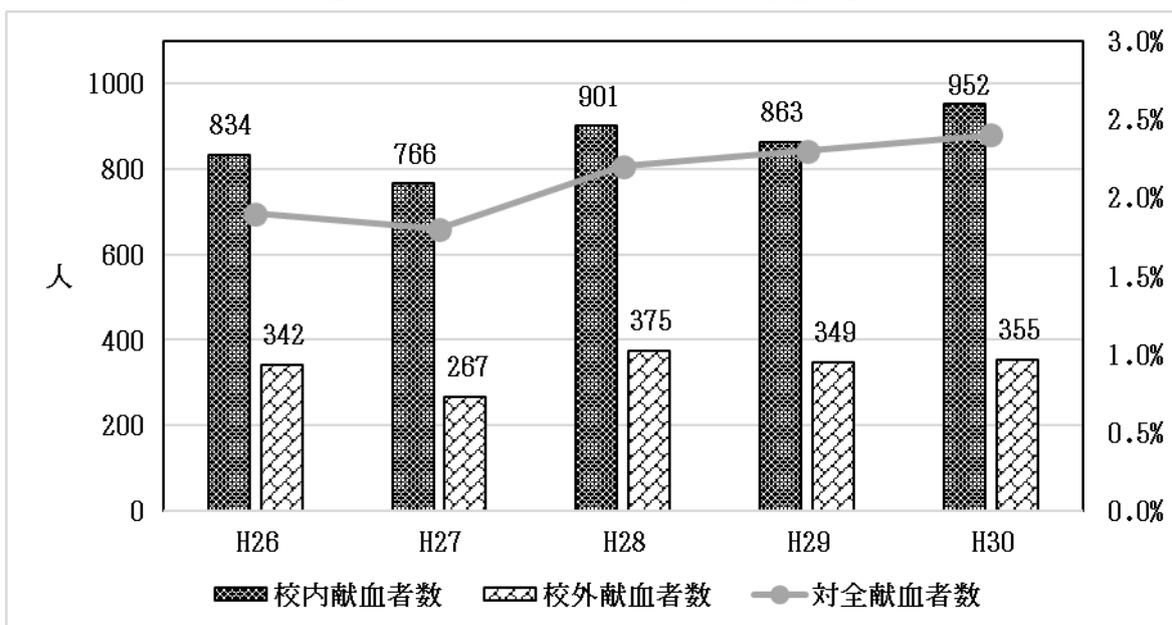
献血は1回行うと不安は解消されると言われます。また、相互扶助、博愛の精神を若いうちから持っていただき、献血の輪を社会に出ても広げていただくため、今後とも学校単位で献血の重要性に関する学習等に取り組んでいただき、できるだけ多くの生徒さんが高校生活3年間のうちに1回は献血を体験していただきたいと思っております。

【 県内高校生の献血状況経年変化 】

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
校内	献血実施学校数 (对学校数比)	23校 (36.4%)	23校 (36.4%)	22校 (28.6%)	20校 (26.0%)	21校 (26.3%)
	献血者数 (对生徒数比)	834人 (2.3%)	766人 (1.9%)	901人 (2.3%)	863人 (2.2%)	952人 (2.6%)
校外	学校数	61校	61校	56校	58校	59校
	献血者数	342人	267人	375人	349人	355人
合計	献血者数	1,176人	1,033人	1,276人	1,212人	1,307人
	对全献血者数	1.9%	1.8%	2.2%	2.3%	2.4%

県内高校 80校(生徒数36,996人)(全日制のみ、校数には分校数等も含む)
 公立高校 55校(生徒数24,883人) 私立高校 25校(生徒数12,113人)
 (平成30年5月1日現在 長崎県教育委員会調べ)

【 県内高校生の献血状況経年変化 】



【 平成30年度高校別献血者数 】

学 校 名	校内	校外	学 校 名	校内	校外	学 校 名	校内	校外
長 崎 東		11	西 海 学 園		5	島 原 翔 南		
長 崎 西		7	聖和女子学院		3	猶 興 館	6	3
長 崎 南		9	九州文化学園		14	北 松 農 業		1
長 崎 北		1	久田学園佐世保女子		1	平 戸	4	
長崎北陽台		5	佐世保実業		15	松 浦		
長崎工業		10	大 崎	11		北 松 西		
長崎鶴洋		7	西 彼 杵	6		清 峰		10
長崎明誠		3	西 彼 農 業			鹿 町 工 業	24	4
鳴 滝		4	大 村		4	五 島		
鳴滝(定時・通信制)			大 村 工 業	37	11	五 島 南		
長崎商業		4	大 村 城 南			奈 留		
海 星	175	18	川 棚	5	5	五 島 海 陽		
長崎南山	226	2	波 佐 見	56	5	宇 久		
活 水		8	向 陽		7	上 五 島		3
長崎女子		5	諫 早		6	中 五 島		
長崎玉成		11	西 長 陵		1	壱 岐	2	
長崎女子商業		1	諫 早 東		2	壱 岐 商 業	18	
聖母の騎士			諫 早 農 業	15	5	対 馬	12	
瓊 浦	106	1	諫 早 商 業		5	豊 玉		
純 心 女 子		1	鎮 西 学 院		2	上 対 馬		
総科大附属		5	長崎日本大学	38	5			
精道三川台		1	創 成 館	65	2	佐世保工業高等専門学校	44	10
青 雲		2	島 原		3	希望が丘		
佐世保南		21	島 原 農 業		2	虹 の 原		
佐世保北		32	島 原 工 業	19	2	島原特別支援学校		1
佐世保西		7	島 原 商 業			こころ未来		3
佐世保工業	29	3	島 原 中 央	54		県外・その他		18
佐世保商業		6	国 見		3			
東 翔			小 浜					
佐世保中央		7	口 加		2	計	952	355

学校名に下線があるのは、公立高校を示す。

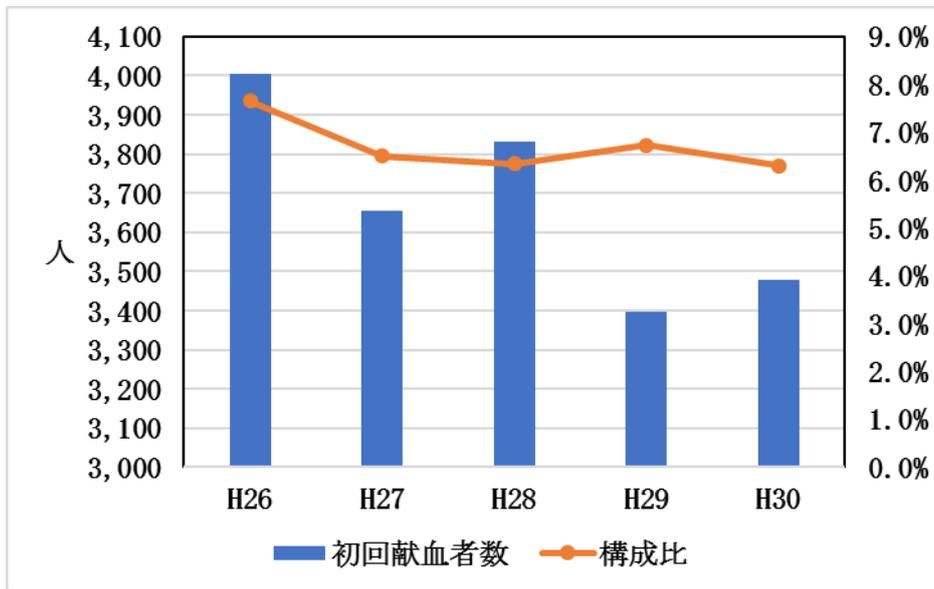
(9) 初回献血者数

全献血者に占める初回献血者の構成比及び初回献血者数は減少傾向にあります。平成30年度は献血者全体の6.52%にあたる3,478人の方々に初めて献血していただき、前年度と比較して若干増加しております。

【 初回献血者数の経年変化 】

	長崎県全体			長崎県赤十字血液センター			佐世保出張所		
	献血者数(人)		初回の 構成比	献血者数(人)		初回の 構成比	献血者数(人)		初回の 構成比
	全 体	初 回		全 体	初 回		全 体	初 回	
平成30年度	53,349	3,478	6.52%	31,266	2,212	7.07%	22,083	1,266	5.73%
平成29年度	53,842	3,395	6.31%	31,581	2,221	7.03%	22,261	1,174	5.27%
平成28年度	56,915	3,831	6.73%	33,159	2,454	7.40%	23,756	1,377	5.80%
平成27年度	57,576	3,655	6.35%	33,526	2,227	6.60%	24,050	1,428	5.90%
平成26年度	61,626	4,004	6.50%	34,855	2,179	6.30%	26,771	1,825	6.80%

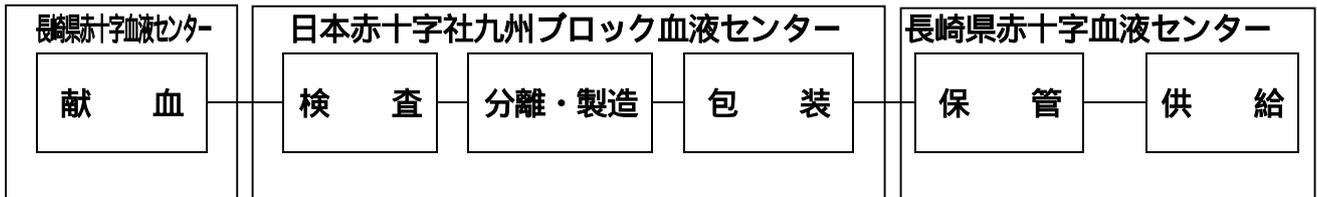
【 長崎県全体の初回献血者数の推移 】



3 血液製剤の製造・供給状況

献血ルームや移動採血車等で献血された血液は、長崎県赤十字血液センター等へ集約されたのち、日本赤十字社九州ブロック血液センターに運ばれ、検査、分離・製造、包装されて再び九州各県の血液センターへ送付・保管され、要請があった医療機関へ供給されます。

【 血液製剤が製造・供給されるまでの流れ 】 平成31年4月現在



3 - 1 献血後の各種検査

献血された血液は、血液型検査や輸血後感染症予防のための血清学的な抗原・抗体検査（CLEIA法）や核酸増幅検査（NAT検査）、献血後にお知らせする生化学検査・血球計数検査などが実施されています。

NAT検査は、抗原や抗体ではなくウイルスを構成する核酸（DNAまたはRNA）の一部を約1億倍に増幅しウイルスの有無を検出するため、非常に感度と特異性が高く、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、エイズウイルス検査について実施され、血液製剤の安全性の向上を図っています。

（1）検査項目等

ABO血液型検査

ABO血液型の検査を行います。

Rh血液型検査

Rh血液型の検査を行います。

不規則抗体検査

輸血副作用の原因となる臨床的意義のある抗体の有無を検査するもので、抗体を保有した血液は輸血には使用しません。

梅毒血清学的検査

CLEIA法（化学発光酵素免疫法）で検査を行い、陰性または陽性を判定して、陰性のみを血液製剤に使用します。

肝機能検査

急性肝炎等では、傷害された肝細胞から酵素が流出して血清中で著明に増加する原理を応用し、血清肝炎のスクリーニングテストとして酵素の値（ALT値）を測定し、異常値が出たものは血液製剤に使用しません。

HBs抗原検査

HBs抗原はB型肝炎ウイルスの抗原の一種で、この検査はB型肝炎ウイルスに感染していないかどうかをCLEIA法（化学発光酵素免疫法）により検査し、陽性の場合には血液製剤に使用しません。

HBc抗体及びHBs抗体検査

HBs抗原検査ではとらえきれないB型肝炎ウイルス感染を発見するための検査で、CLEIA法（化学発光酵素免疫法）により検査し、HBc抗体が陽性で中和抗体であるHBs抗体の力価が基準値より低い場合は血液製剤に使用しません。

HTLV-1抗体検査

HTLV-1により引き起こされる疾患のATL（成人T細胞白血病）、HAM（脊髄疾患の一種）、ブドウ膜炎（眼球内にあるブドウ膜の炎症）、その他リウマチ様疾患はまれにしか発症しない特殊な疾病ですが、CLEIA法（化学発光酵素免疫法）により抗体の有無を検査し、陽性の場合には血液製剤に使用しません。

HIV抗体検査

HIVウイルスの感染により産生される抗体の有無をCLEIA法（化学発光酵素免疫法）で検査し、陽性の場合には血液製剤に使用しません。

HCV抗体検査

C型肝炎ウイルスに対する抗体の有無をCLEIA法（化学発光酵素免疫法）で検査し、陽性の場合には血液製剤に使用しません。

ヒトパルボウイルスB19抗原検査

ヒトパルボウイルスB19は、小児における伝染性紅斑の原因ウイルスですが、溶血性貧血患者が感染すると重症の貧血発作を起こしたり、妊婦の感染による胎児の異常（胎児水腫）および流産の症例報告があります。CLEIA法（化学発光酵素免疫法）で検査し、陽性の場合には血液製剤に使用しません。

NAT検査（核酸増幅検査）

B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、エイズウイルス検査については、ウイルスの遺伝子の主体であるDNA、RNAの一部を増やしてウイルスの存在を検出し、陽性の場合には血液製剤に使用しません。

（2）検査結果

ABO血液型検査

【 平成30年度ABO血液型別献血者数（県全体） 】

	A	O	B	AB	計
献血者数	20,897	15,728	10,898	5,826	53,349
割合	39.2%	29.5%	20.4%	10.9%	

Rh血液型検査

【 平成30年度Rh(-)血液型別献血者数（県全体） 】

全献血者数	Rh(-)型献血者数	割合
53,349	486	0.91%

献血後検査不合格状況

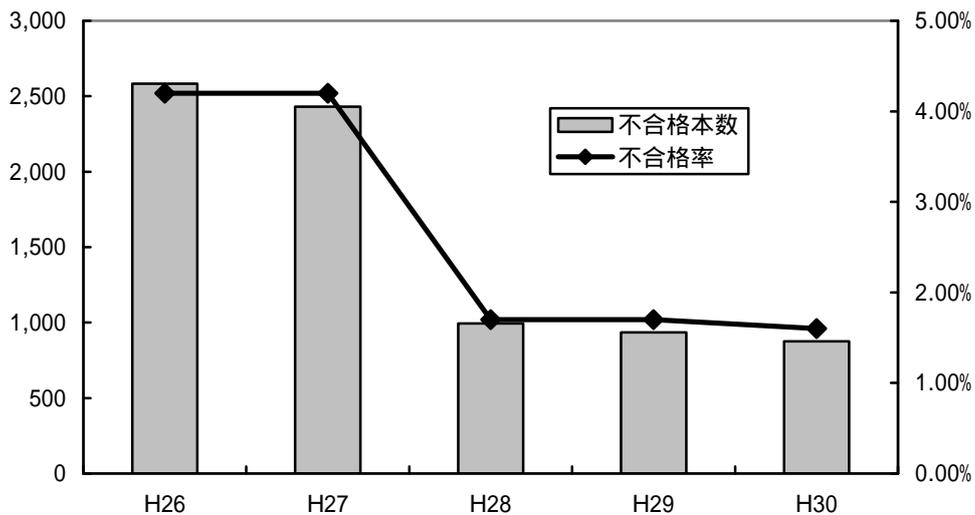
血液製剤の安全性を確保するため様々な検査を実施していますが、平成30年度に献血いただいた血液のうち1.6%が検査落ちになっており、平成28年度から大きく減少しています。これは、肝機能の基準値が緩和されたことによります。

【 献血後検査不合格者数の経年変化 】

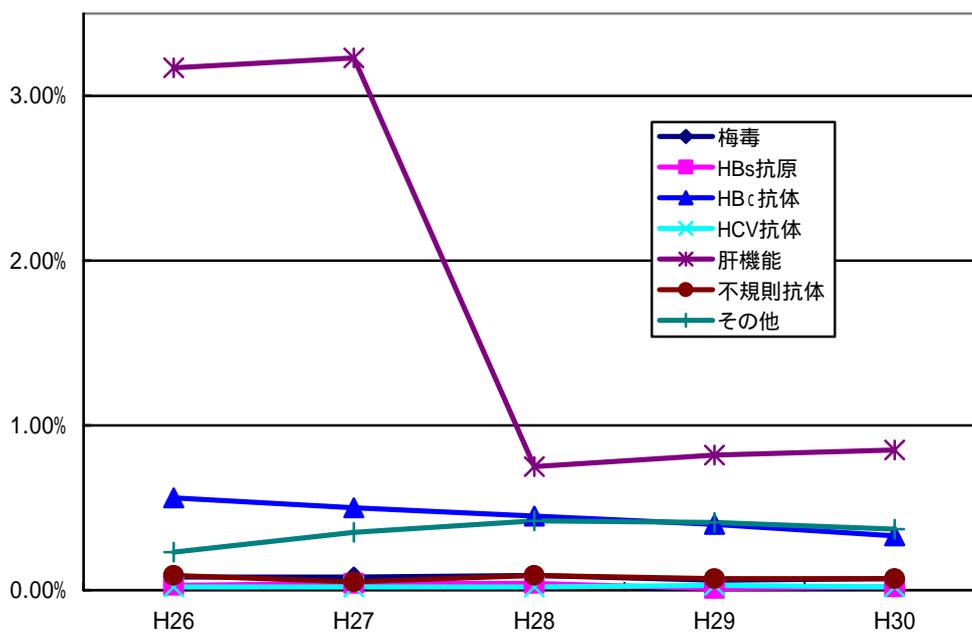
年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
採血本数	61,626	57,576	56,915	53,842	53,349	
不合格本数	2,583	2,430	994	935	876	
不合格率	4.2%	4.2%	1.7%	1.7%	1.6%	
不合格の内訳	梅毒	48	45	51	30	36
	比率	0.08%	0.08%	0.09%	0.06%	0.07%
	HBs抗原	20	24	23	8	9
	比率	0.03%	0.04%	0.04%	0.01%	0.02%
	HBc抗体	346	287	254	215	174
	比率	0.56%	0.50%	0.45%	0.40%	0.33%
	HCV抗体	10	11	13	15	11
	比率	0.02%	0.02%	0.02%	0.03%	0.02%
	肝機能	1,951	1,861	427	440	453
	比率	3.17%	3.23%	0.75%	0.82%	0.85%
	不規則抗体	57	28	52	36	38
	比率	0.09%	0.05%	0.09%	0.07%	0.07%
	その他	144	204	238	221	195
	比率	0.23%	0.35%	0.42%	0.41%	0.37%

(注) 不合格本数と原因別内訳合計数との差は、検査落原因の重複があるため

【 検査不合格の経年変化 】



【 不合格理由の経年変化 】



3 - 2 血液製剤の供給状況

昭和50年頃までは輸血というと保存血液主体で、すべての血液成分（赤血球、血小板、血漿など）を輸血していましたが、医学の進歩に伴って今日では、献血された血液を各成分に分けて必要な成分だけを輸血する方法が発達普及し、輸血の多くがこうした方法で行われるようになりました。

この輸血療法を『成分輸血療法』といい、

必要な成分ごとに分けてあるので、すべての血液成分を輸血する場合に比べて多くの場合、輸血量が少なくてすみ、患者の循環器系への負担の軽減に役立つ。

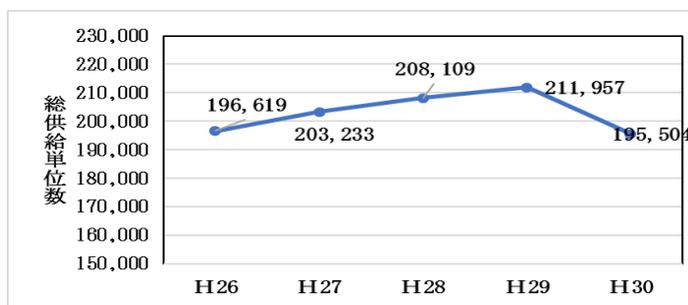
治療に不必要な成分による発熱などの副作用が少なくなる。

などの大きな医学的な利点があると同時に、貴重な血液の有効利用にも役立っています。

（1）全体の供給状況

血液製剤の総供給単位数は年々増加してきましたが、平成30年度は195,504単位と前年度と比較して減少しました。

【 県内の血液製剤供給量の経年変化 】



（2）製剤別供給状況

全血製剤供給状況

全血製剤は、献血された血液に血液保存液を加えたもので、主に大量輸血時などに使用される製剤です。

近年、多くの医療機関で『成分輸血療法』が浸透してきたため、その供給はほとんどなくなり、平成13年度以降、供給実績はありません。

赤血球製剤供給状況

赤血球製剤は、献血された血液を遠心分離し、上層の血漿層、白血球層の大部分を取り除いたもので、急性あるいは慢性の出血に対する治療や貧血の急速な補正などに使用される製剤です。

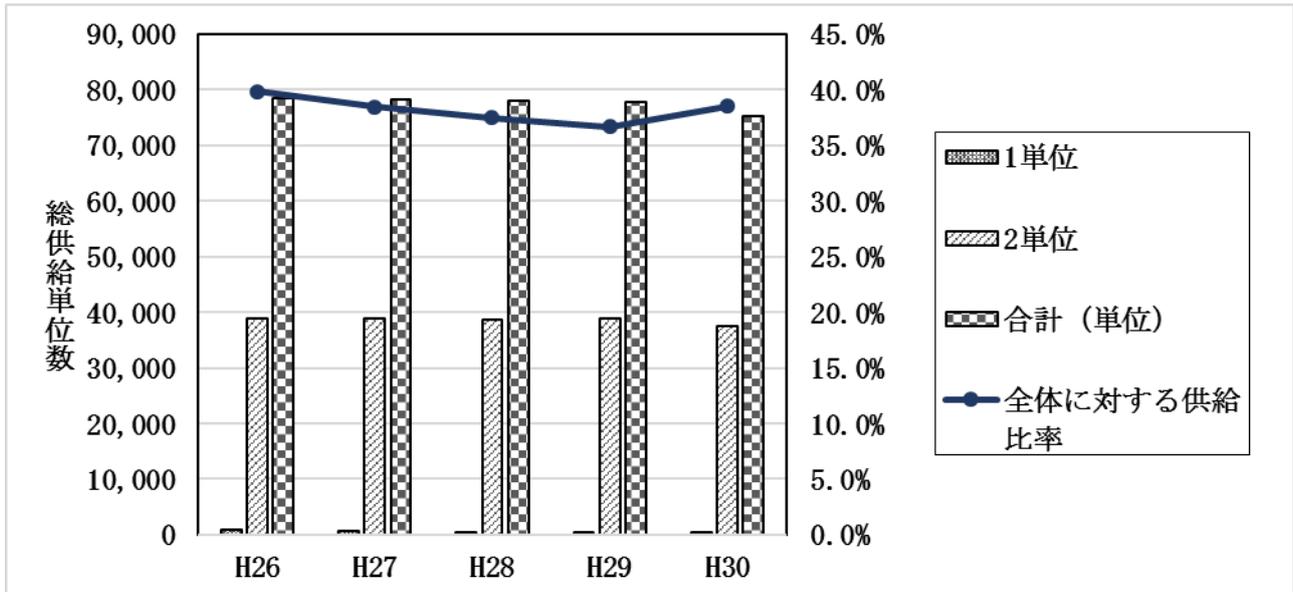
赤血球製剤の供給単位数は、平成30年度は75,345単位が供給され、全体の製剤供給に対する比率が38.5%となっております。

また、2単位製剤への移行が進んでおり、平成19年度以降、赤血球製剤全体に占める2単位製剤の供給比率は95%を超えて推移し、平成30年度では99.9%となっております。

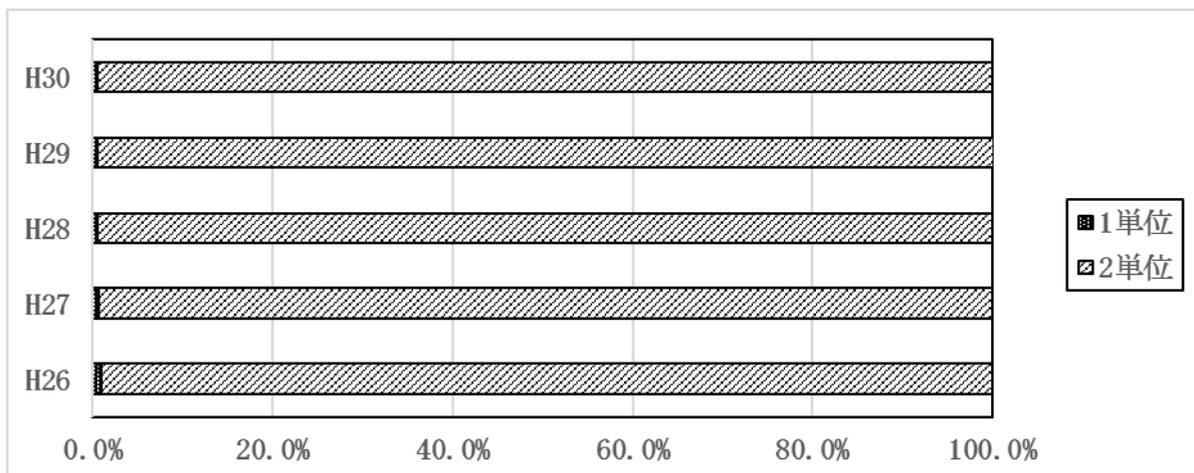
このように2単位製剤の需要が多くなってきているため、全血献血に協力していただける方には400mL献血への協力をお願いしています。

赤血球製剤には、赤血球液、解凍赤血球液、洗浄赤血球液などがありますが、平成30年度供給は、全赤血球製剤の99.9%を赤血球液が占めています。

【 赤血球製剤単位別供給の経年変化 】



【 赤血球製剤単位別供給比率の経年変化 】



血小板製剤供給状況

血小板製剤は、心臓手術の際など急激に血小板が減少した場合や、造血器腫瘍や再生不良性貧血などの血小板産生低下による止血や出血防止などに使用される製剤です。

平成30年度は、前年度に比べて10,175単位減少し、95,625単位が供給されています。

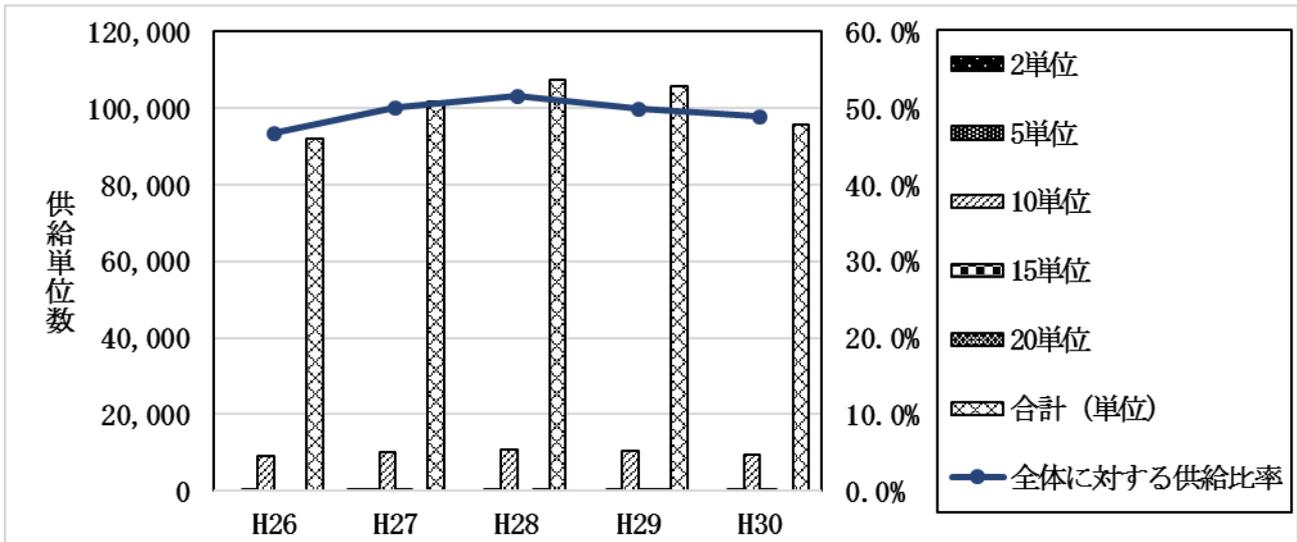
全体の製剤供給に対する比率は近年増加傾向にあり、平成13年度以降は40%を超えて推移し、平成30年度は48.9%となっています。

単位別に見ると、10単位製剤の供給が最も多く、平成30年度は9,551本が供給されました。

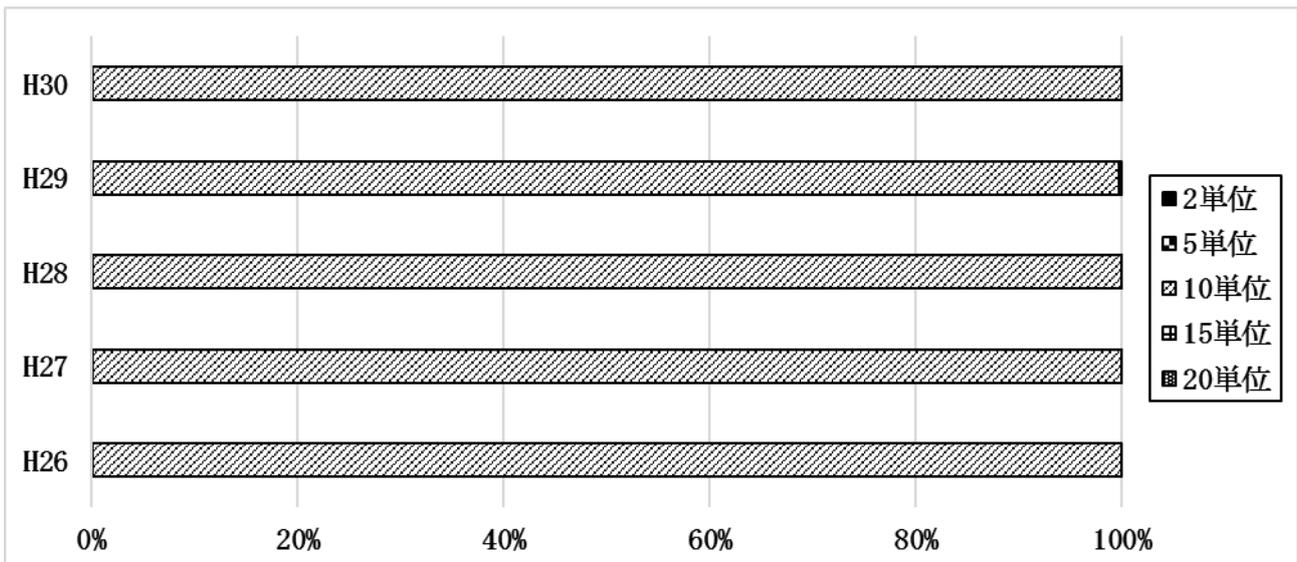
また、20単位製剤は平成16年度までは増加傾向にあり、平成17年度以降は、10本から40本（200～800単位）前後で推移していましたが、平成26年度以降は供給実績がほとんどありません。

このように血小板製剤の供給は、10単位製剤が99.9%と大部分を占めています。

【 血小板製剤単位別供給の経年変化 】



【 血小板製剤単位別供給比率の経年変化 】



血漿製剤供給状況

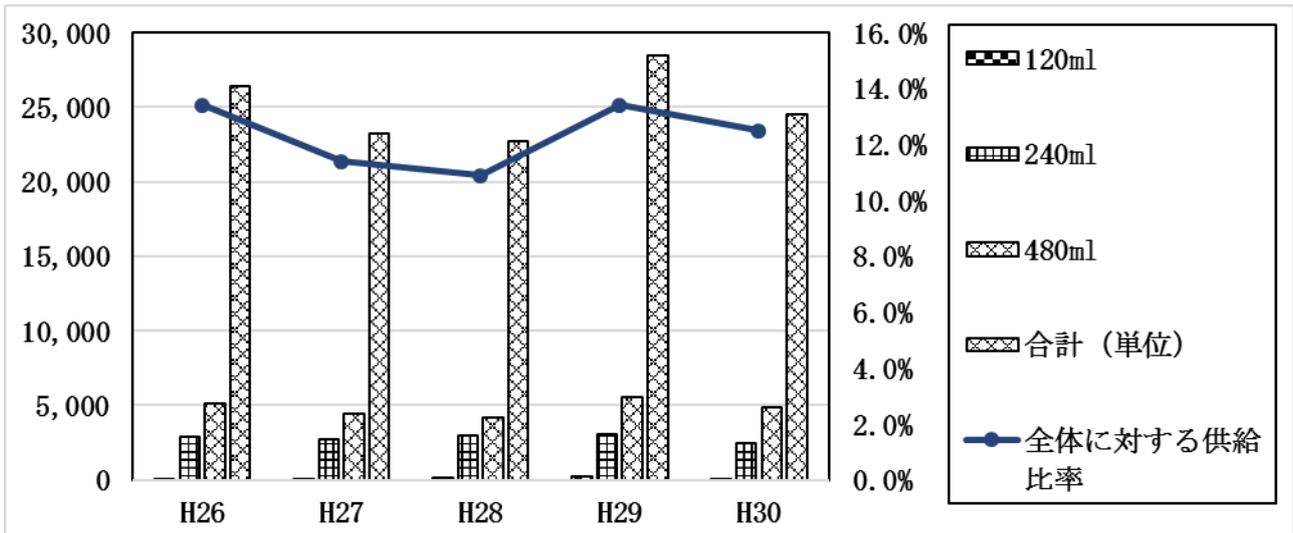
血漿製剤は、血液を遠心分離して上層の血漿だけを取りだしたもので、主に外傷や外科手術の時の凝固因子の確保や、それらの欠乏による出血傾向にあるときに使用される製剤です。

血漿製剤の供給は、平成30年度は24,534単位が供給されています。

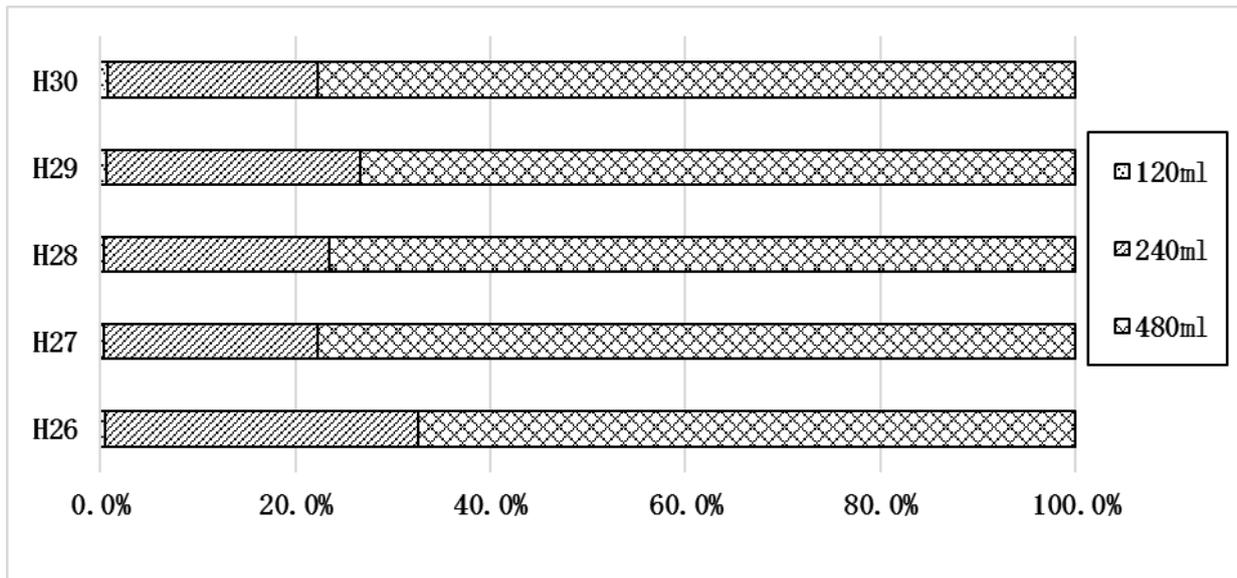
全体の製剤供給に対する比率は、平成30年度は12.5%となっています。

単位別に見ると、480ml製剤の使用量が多く、平成30年度の製剤別供給比率は79.8%となっています。

【 血漿製剤供給の経年変化 】



【 血漿製剤単位別供給比率の経年変化 】



このように、近年、県内の医療機関への輸血用血液製剤は、全血製剤の供給がなくなり、血液成分製剤のうち赤血球製剤では2単位の人赤血球濃厚液が、血小板製剤では成分献血由来の10単位製剤が、血漿製剤では240ml及び480mlの新鮮凍結人血漿がそれぞれ主に供給されています。

【 血液製剤の供給状況 】

品名		年度		H 26	H 27	H 28	H 29	H 30	所属別		
		1単位	2単位						長崎県	佐世保	
血液成分製剤	赤血球液	1単位		721	518	436	385	341	329	12	
		2単位		38,710	38,720	38,660	38,631	37,346	26,364	10,982	
	解凍赤血球液	1単位		0	0	0	0	0	0	0	
		2単位		0	0	0	4	0	0	0	
	洗浄赤血球液	1単位		49	30	10	19	21	21	0	
		2単位		81	77	91	129	140	138	2	
	白血球除去人赤血球浮遊液	1単位		0	0	0	0	0	0	0	
		2単位		0	0	0	0	0	0	0	
	合成血液	1単位		1	2	1	1	1	1	0	1
		2単位		6	9	2	1	5	0	0	5
			計(本数)		39,568	39,356	39,200	39,170	37,854	26,852	11,002
			計(単位)		78,365	78,162	77,953	77,818	75,345	53,354	21,991
			割合		39.9%	38.5%	37.5%	36.7%	38.5%	36.1%	45.9%
血液製剤	血小板製剤	2単位		0	1	0	0	0	0	0	
		5単位		21	22	22	23	20	18	2	
		10単位		9,175	10,172	10,729	10,537	9,551	7,482	2,069	
		15単位		0	1	0	1	1	1	0	
		20単位		0	0	2	15	0	0	0	
			計(本数)		9,196	10,196	10,753	10,576	9,572	7,501	2,071
			計(単位)		91,855	101,847	107,440	105,800	95,625	74,925	20,700
			割合		46.7%	50.1%	51.6%	49.9%	48.9%	50.8%	43.2%
血漿製剤	新鮮凍結血漿	120ml		87	90	134	216	56	46	10	
		240ml		2,904	2,681	2,963	3,071	2,449	1,364	1,085	
		480ml		5,126	4,443	4,164	5,529	4,895	4,140	755	
			計(本数)		8,117	7,214	7,261	8,816	7,400	5,550	1,850
			計(単位)		26,399	23,224	22,716	28,339	24,534	19,334	5,200
			割合		13.4%	11.4%	10.9%	13.4%	12.5%	13.1%	10.9%
総供給本数				56,881	56,766	57,214	58,562	54,826	39,903	14,923	
総供給単位数				196,619	203,233	208,109	211,957	195,504	147,613	47,891	

血漿製剤の単位換算について、従来 120ml を 1.5 単位、240ml を 3 単位、480ml を 5 単位としていたが、平成 28 年度から各々 1、2、4 単位として算出するようになった。

3 - 3 血液製剤の供給方法

離島を数多くかかえ、地理的に特殊条件下にある長崎県では血液製剤の供給体制の確立には苦慮してきましたが、関係者のご協力により県下あまねく緊急時にも供給できるよう順次備蓄施設の整備を行ってきました。

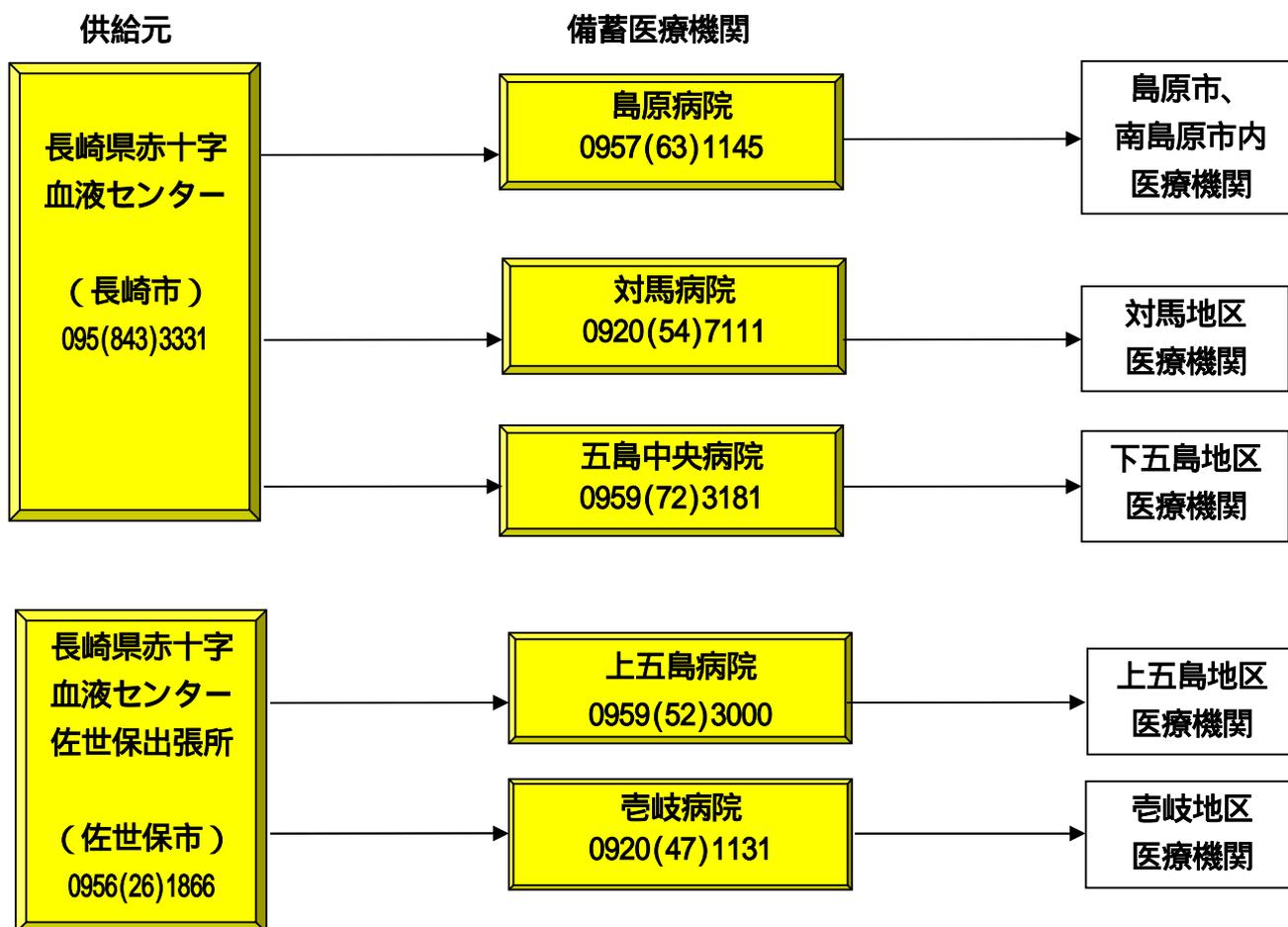
また、空港の整備により血液の緊急輸送もある程度可能となり離島の献血者の善意にも報いることができ、救急医療の面で大いに貢献しています。

過去には、五島、壱岐、対馬にあっては血液製剤備蓄が不十分だったため、いわゆる枕元輸血に頼る場合も多く、そのため患者家族の負担も大きく献血推進の阻害にもなっていましたが、昭和53年度までに関係市町及び関係機関の協力を得て人赤血球濃厚液及び新鮮凍結人血漿の備蓄供給体制が確立されました。

【 備蓄血液製剤の保管温度及び有効期間 】

品名	保管温度	有効期間
赤血球液	2～6	21日間
新鮮凍結人血漿	-20以下	1年間
濃厚血小板	20～24	4日間

【 長崎県における血液製剤の供給経路 】 平成31年3月現在



注) 経路図の□は、血液製剤の備蓄施設を示す。

3 - 4 離島における血液製剤使用状況

【 離島における血液成分製剤使用状況の経年変化 】

(本 : 200mL換算)

年度 保健所	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度
五島保健所	4,496	3,260	4,296	4,783	4,296
上五島保健所	2,186	1,970	2,566	2,342	1,608
壱岐保健所	1,119	2,276	2,130	1,794	1,200
対馬保健所	1,508	2,114	2,688	1,974	1,262
計	9,309	9,620	11,680	10,893	8,366

全血製剤、院内採血については過去5年間実績なし

4 平成31年度（令和元年度）献血計画

(1) 献血目標（県全体）（人口：1,339,438人）

200mL献血	796人
400mL献血	40,125人
血漿成分献血	10,745人
血小板成分献血	5,724人
合 計	57,390人（人口比：4.3%）
献 血 量	23,543L

（献血目標内訳）

	市町 （長崎市、佐世保市を除く）	長崎市	佐世保市
人 口	673,391人	416,419人	249,628人
人 口 比	3.0%	5.6%	5.6%
合 計	20,294人	23,221人	13,875人
200mL献血	395人	251人	150人
400mL献血	19,899人	12,661人	7,565人
血漿成分献血	-	6,726人	4,019人
血小板成分献血	-	3,583人	2,141人

人口は平成30年10月1日現在の推定人口（県統計課調べ）

(2) 平成31年度（令和元年度）保健所別献血目標

	献血可能 人 口 (人)	200mL 献 血 (人)	400mL 献 血 (人)	血 漿 成分献血 (人)	血小板 成分献血 (人)	合計 (人)	献血量 (L)
長 崎 県	722,928	796	40,125	10,745	5,724	57,390	23,543
長 崎 市	228,107	251	12,661	6,726	3,583	23,221	9,705
佐 世 保 市	136,298	150	7,565	4,019	2,141	13,875	5,799
西彼保健所	54,991	61	3,052	-	-	3,113	1,232
県央保健所	149,499	165	8,298	-	-	8,462	3,352
県南保健所	66,131	73	3,671	-	-	3,744	1,483
県北保健所	33,130	36	1,839	-	-	1,875	743
五島保健所	17,203	19	955	-	-	974	386
上五島保健所	9,988	11	554	-	-	565	224
壱岐保健所	12,475	14	692	-	-	706	280
対馬保健所	15,106	17	838	-	-	855	339

献血可能人口とは16歳から64歳までの人口で、平成30年10月1日現在の推定人口（県統計課調べ）